

3. 健康、医療、福祉

(1) 健診（検診）

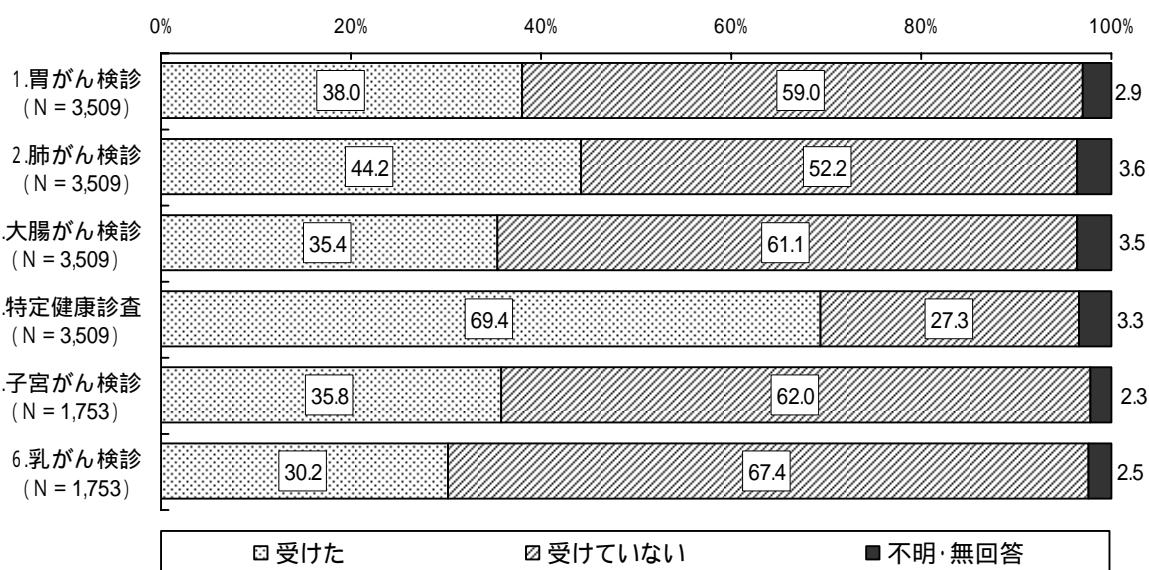
健診（検診）の受診状況

問 13 あなたは、次の健診（検診）を受けられたことがありますか。（ はそれぞれの項目につき1つだけ）過去1年間の状況について、 をつけてください。

子宮がん検診、乳がん検診は女性のみ過去の2年間の状況

「特定健康診査」の受診率が最も高く69.4%

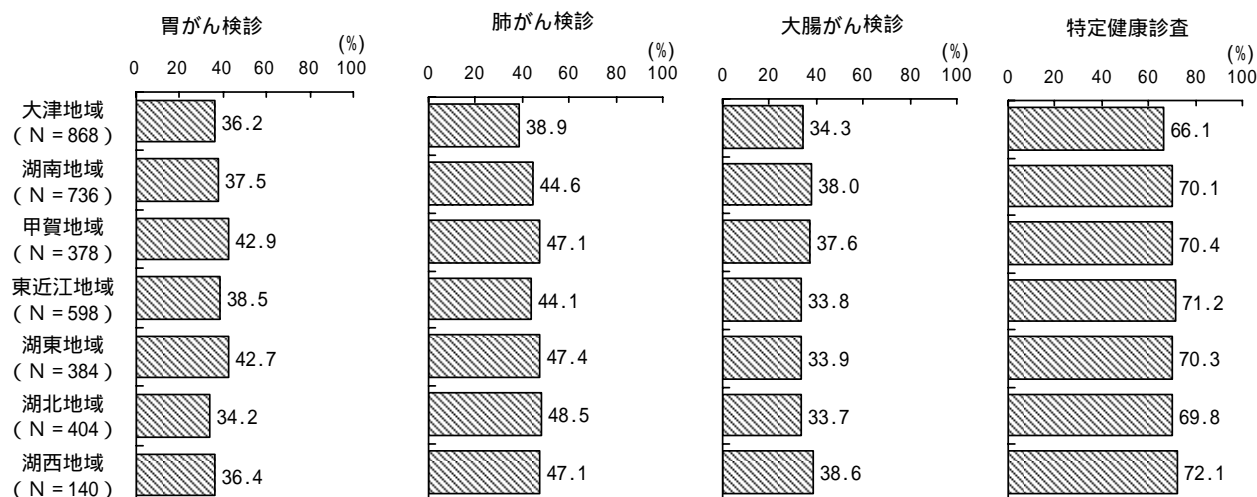
「特定健康診査」の受診率が最も高く69.4%となっている。がん検診の中では「肺がん検診」の受診率が最も高く44.2%となっている。女性のみへの質問である「子宮がん検診」の受診率は35.8%、「乳がん検診」は30.2%となっている。

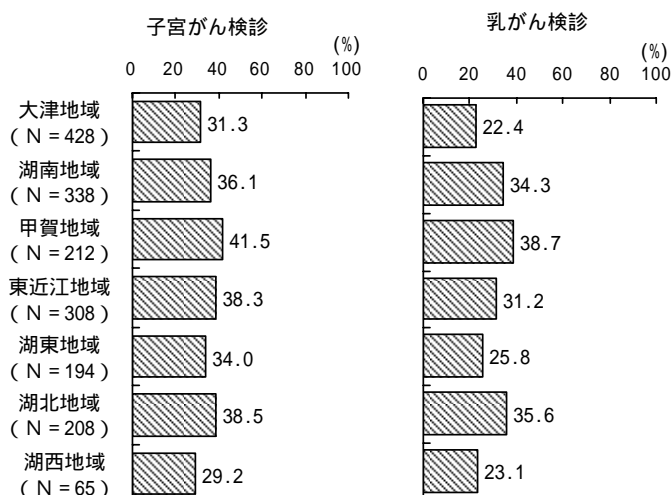


【地域別】

すべての地域で「特定健康診査」の受診率が最も高く、6割を超えている。女性のみへの質問項目である「子宮がん検診」、「乳がん検診」はともに甲賀地域で最も高く、それぞれ41.5%、38.7%となっている。

地域別の受診率

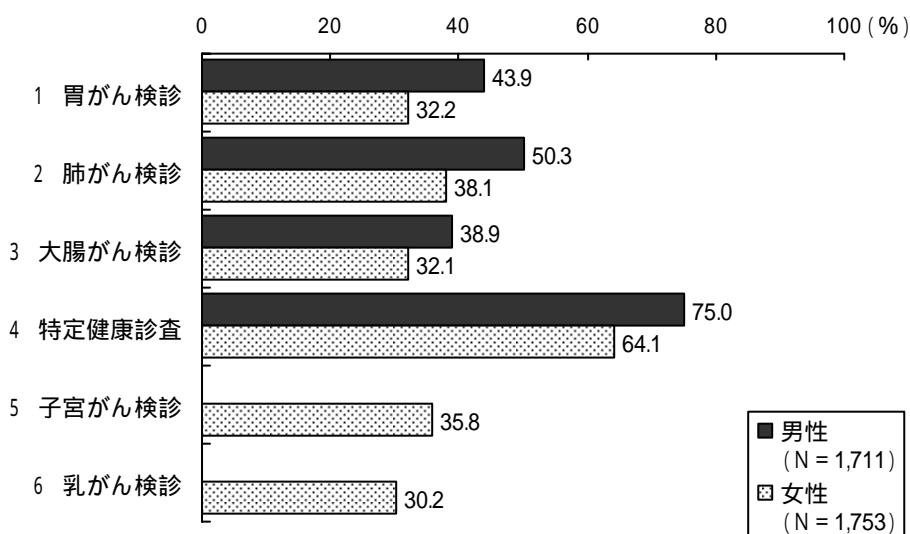




【性別】

男女共通の項目はすべて男性のほうが受診率が高くなっている。「胃がん検診」では 11.7 ポイント、「肺がん検診」では 12.2 ポイント、「大腸がん検診」では 6.8 ポイントそれぞれ男性のほうが高くなっている。

男女別の受診率



【性・年代別】

男性の受診率はすべての検診において、50 歳代で最も高く、20 歳代で最も低くなっている。女性は、「胃がん検診」「肺がん検診」「大腸がん検診」の受診率が 40 歳以上で高くなっている。また、「胃がん検診」「肺がん検診」「特定健康診査」では、すべての年代で男性のほうが女性に比べ受診率が高くなっている。

女性だけの項目である「子宮がん検診」、「乳がん検診」は 40 歳代で最も受診率が高く、それぞれ 41.9%、44.9%となっている。「乳がん検診」は 20 歳代で最も低く、7.2%となっている。

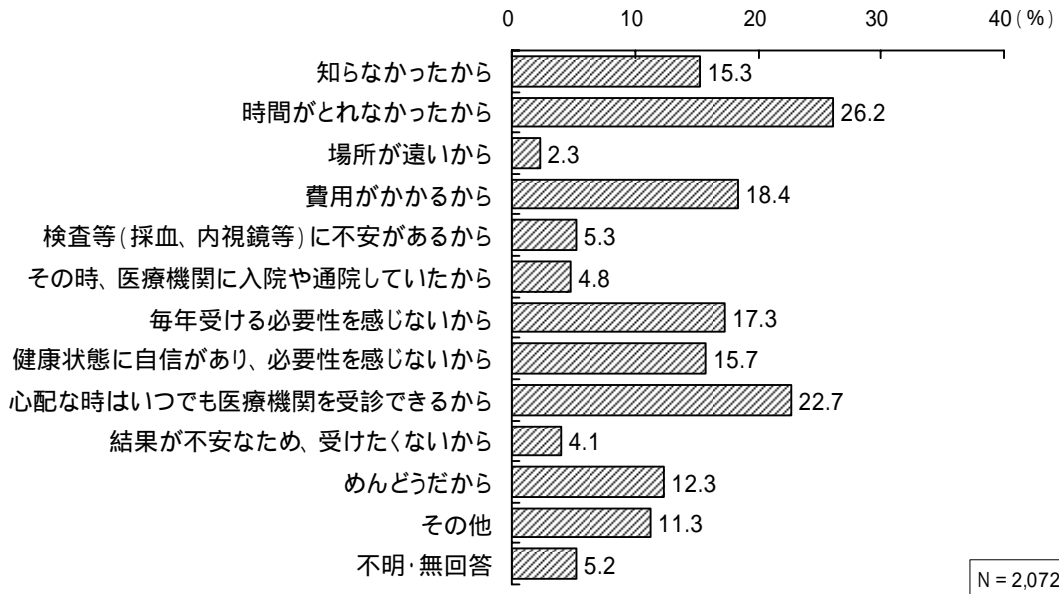
健診（検診）を受けられなかった理由

付問1 問13であげた健診を受けられなかった理由について、検診ごとにそれぞれ次の中から3つ以内を選び、その番号を記入してください。

1) 胃がん検診

「時間がとれなかったから」が26.2%

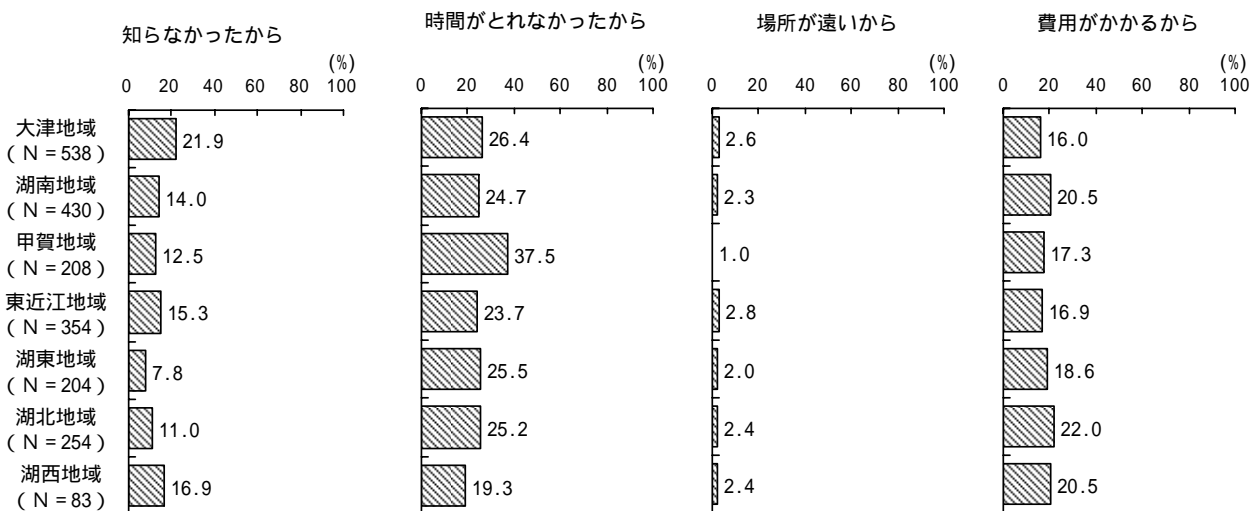
「時間がとれなかったから」が最も高く26.2%で、次いで「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」(22.7%)、「費用がかかるから」(18.4%)の順となっている。

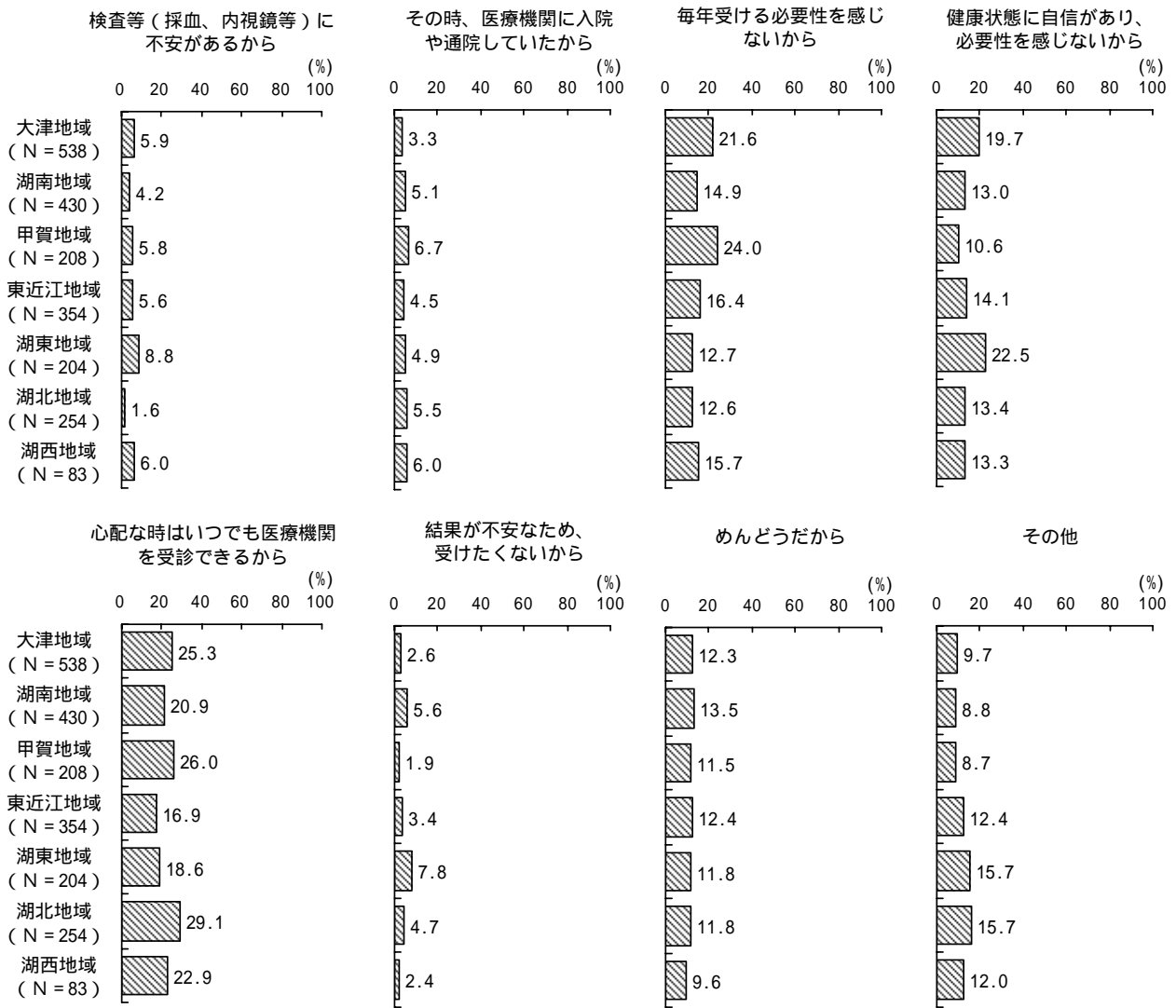


【地域別】

湖北・湖西地域では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最も高く、その他の地域では「時間がとれなかったから」が最も高く、なかでも、甲賀地域が37.5%と最も高くなっている。

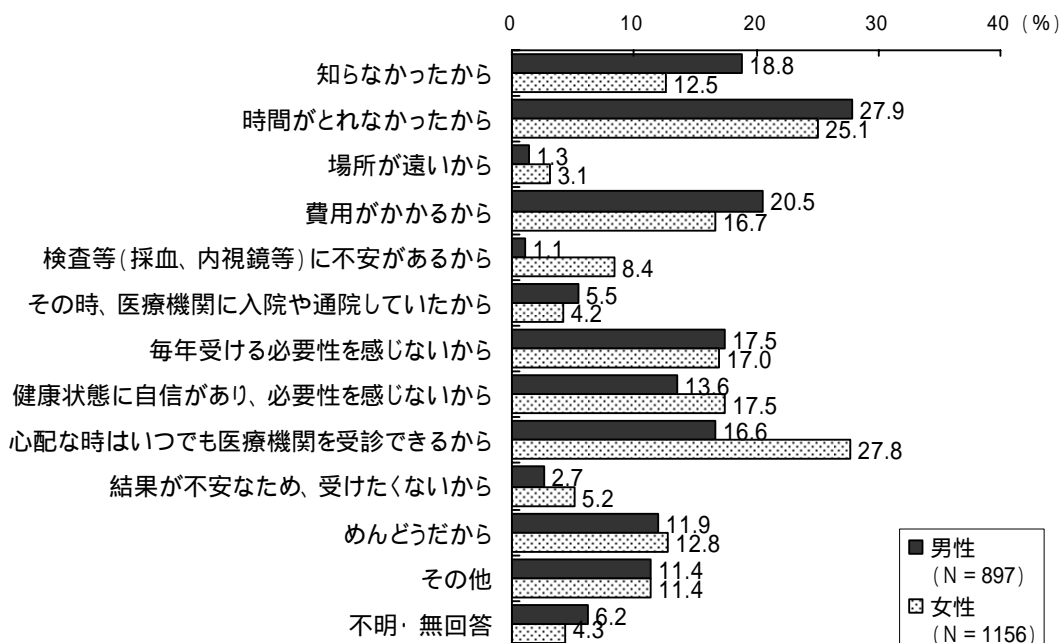
また「毎年受ける必要性を感じないから」では大津・甲賀地域が、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」では湖東地域が他の地域に比べ高くなっている。





【性別】

男性では「時間がとれなかったから」が 27.9%で最も高く、女性では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が 27.8%と最も高く、男性より 11.2 ポイント高くなっている。



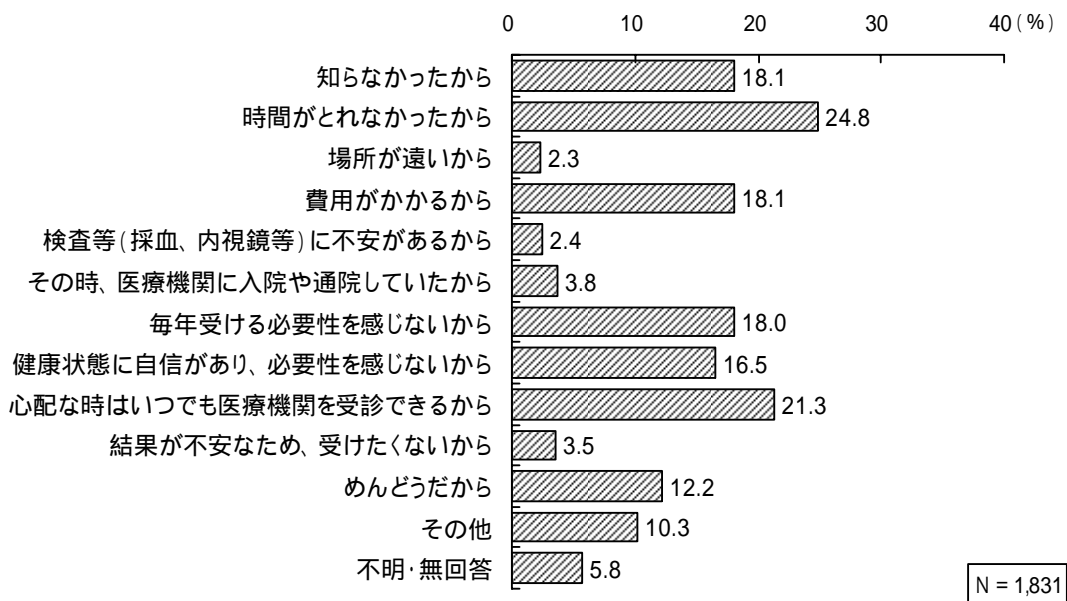
【性・年代別】

男女とも 20 歳代では「知らなかったから」が、30 歳代では「費用がかかるから」が最も高くなっている。男性の 40～60 歳代、女性の 40 歳代では「時間がとれなかったから」が、男性の 70 歳以上、女性の 50 歳以上では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最も高くなっている。

2) 肺がん検診

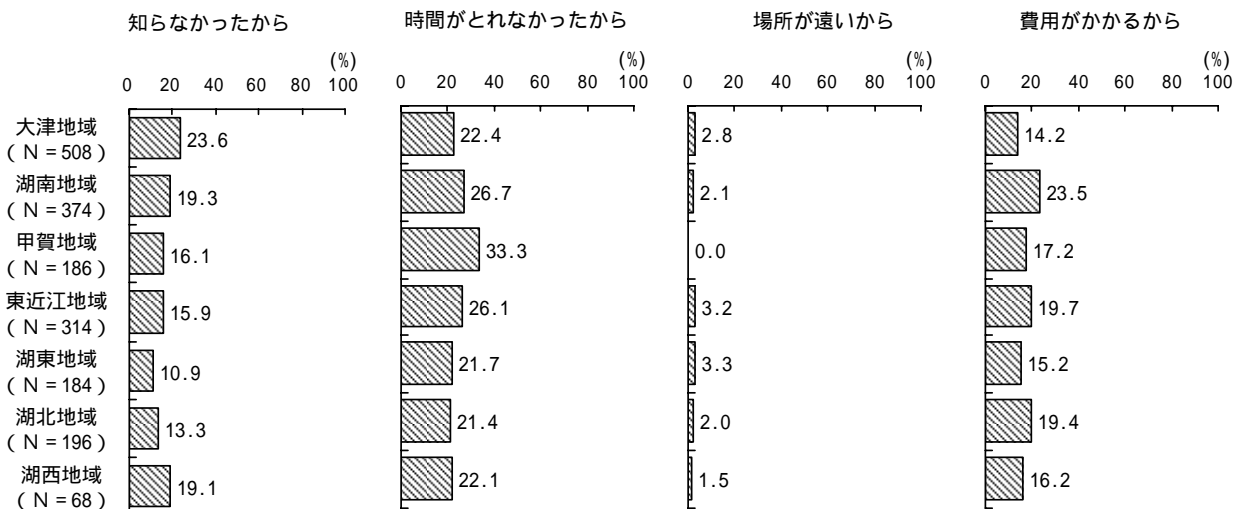
「時間がとれなかったから」が 24.8%

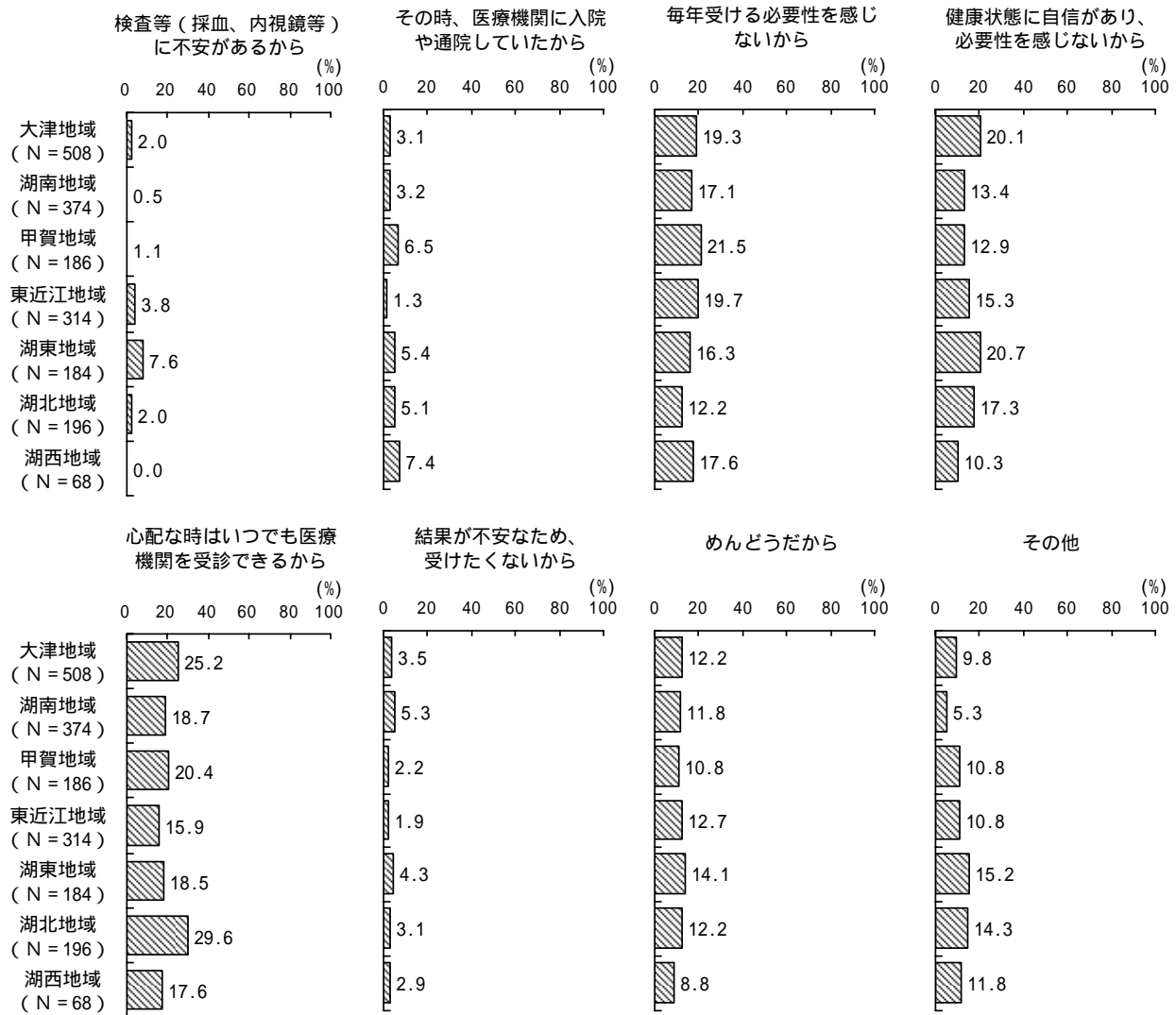
「時間がとれなかったから」が最も高く 24.8%で、次いで「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」(21.3%)、「知らなかったから」「費用がかかるから」(18.1%)の順となっている。



【地域別】

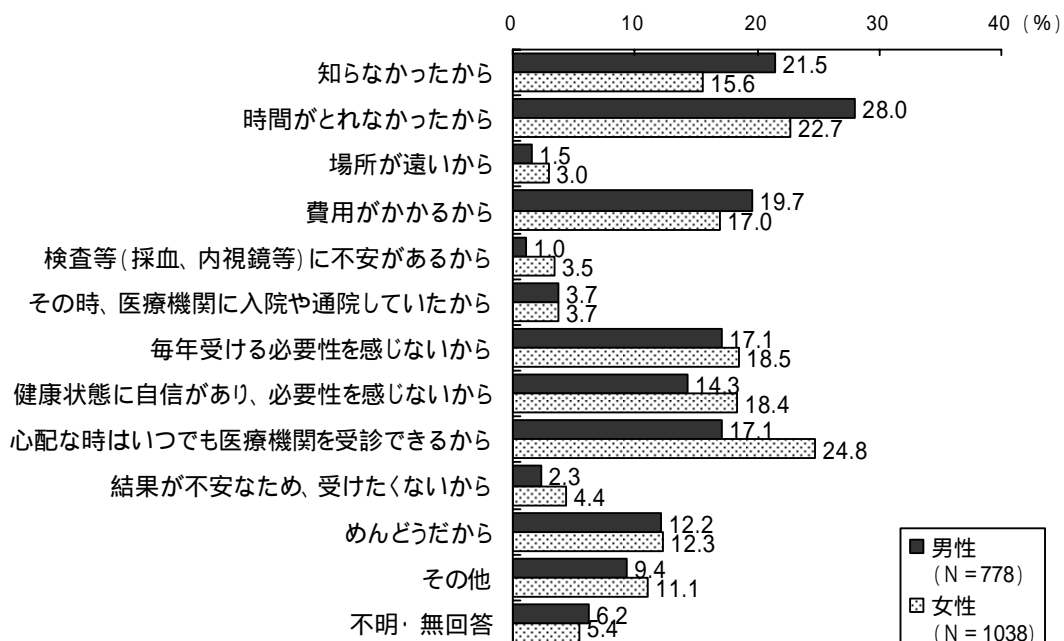
大津・湖北地域では、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最も高く 25.0%を超えている。その他の地域では「時間がとれなかったから」が最も高くなっている。





【性別】

男性では「時間がとれなかったから」が28.0%で最も高く、女性では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が24.8%と最も高くなっている。



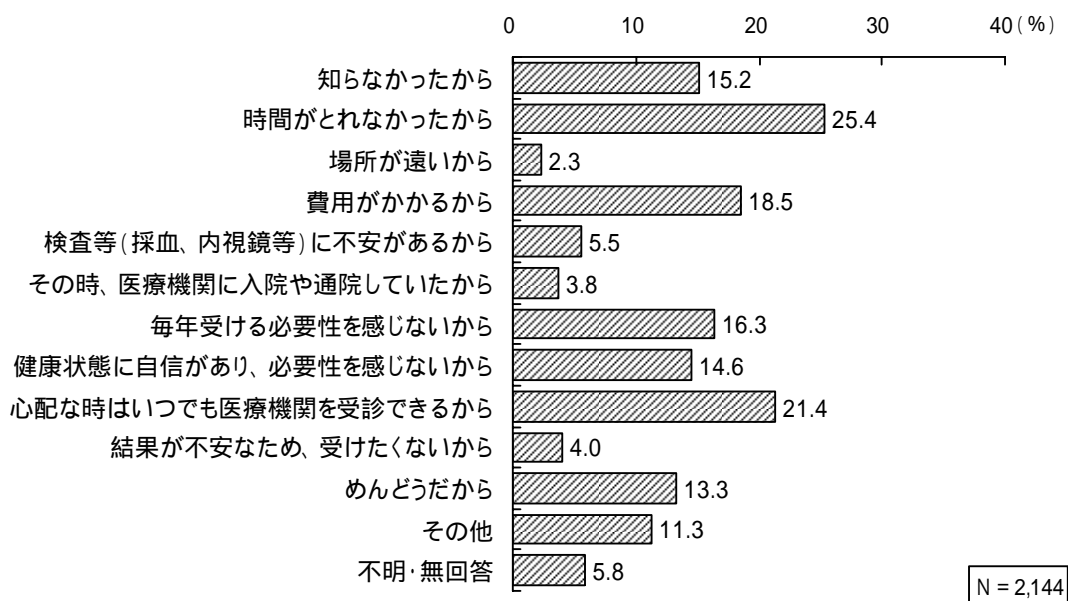
【性・年代別】

男性の20～30歳代、女性の20歳代では「知らなかったから」が、女性の30歳代では「費用がかかるから」が最も高くなっている。男性の40～60歳代と女性の40歳代では「時間がとれなかったから」が、男性の70歳以上と女性の50歳以上では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最も高くなっている。

3) 大腸がん検診

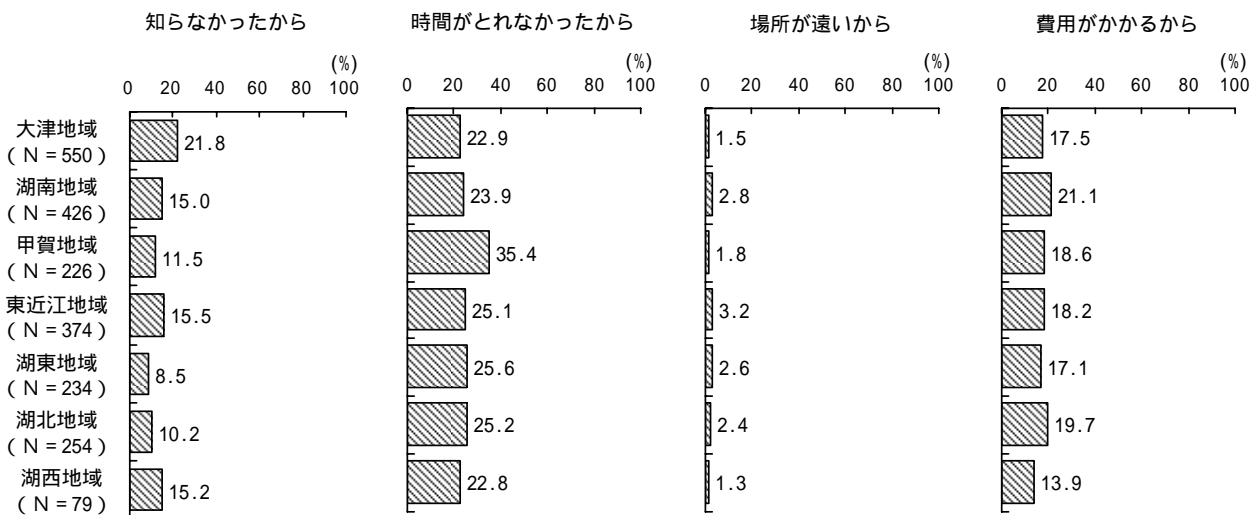
「時間がとれなかったから」が25.4%

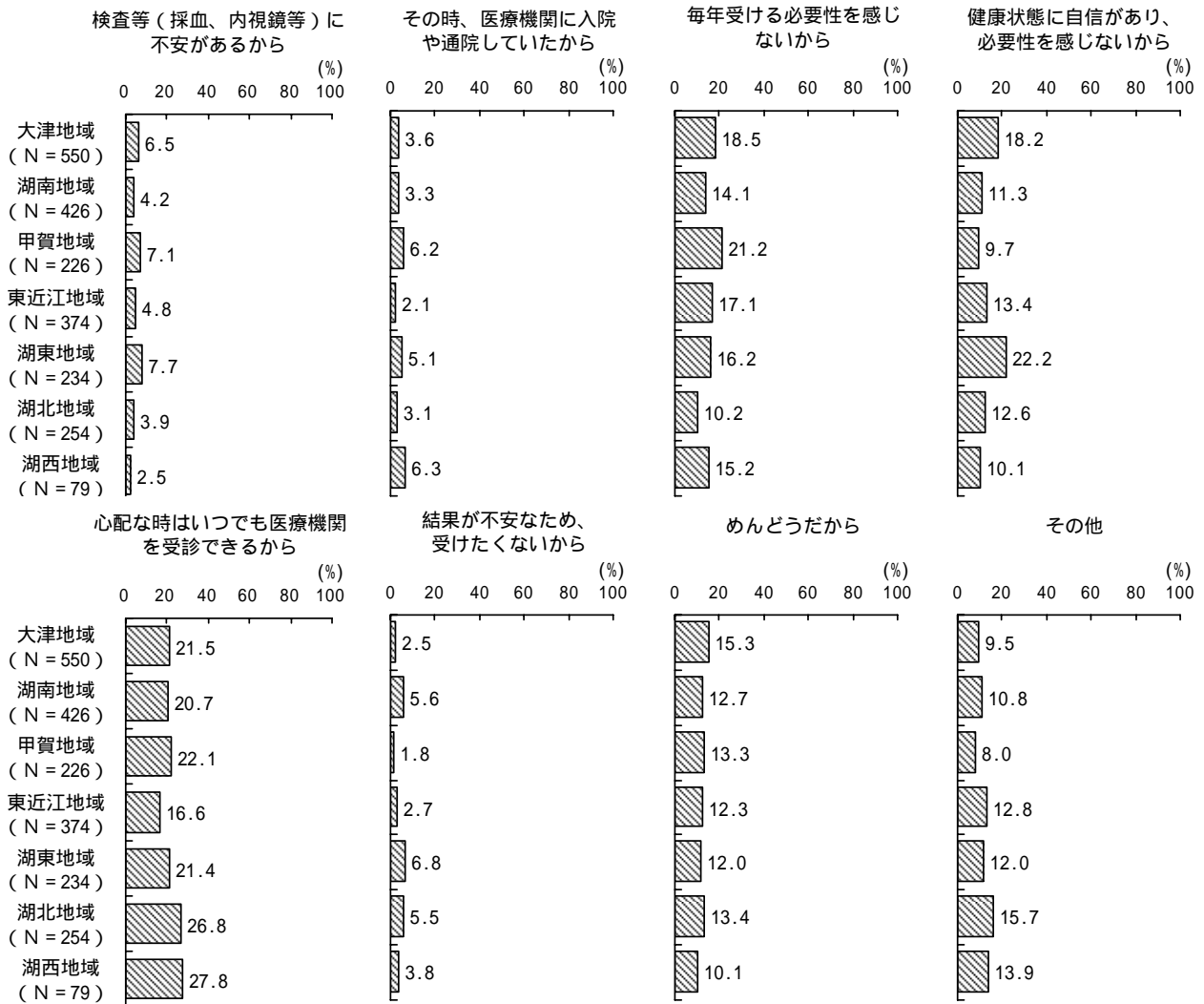
「時間がとれなかったから」が25.4%と最も高く、次いで「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」(21.4%)、「費用がかかるから」(18.5%)の順となっている



【地域別】

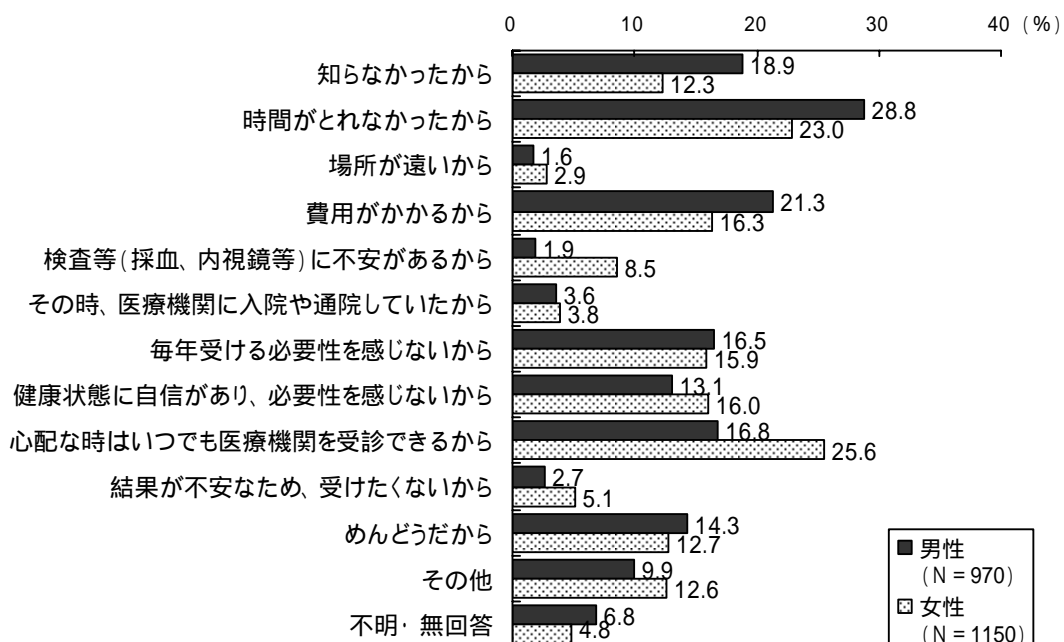
湖北・湖西地域では、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が、その他の地域では「時間がとれなかったから」が最も高くなっている。また、「知らなかったから」は湖東地域が8.5%と低く、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」は湖東地域で22.2%と他の地域に比べ高くなっている。





【性別】

男性では「時間がとれなかったから」が 28.8%で最も高く、女性では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が 25.6%と最も高くなっている。



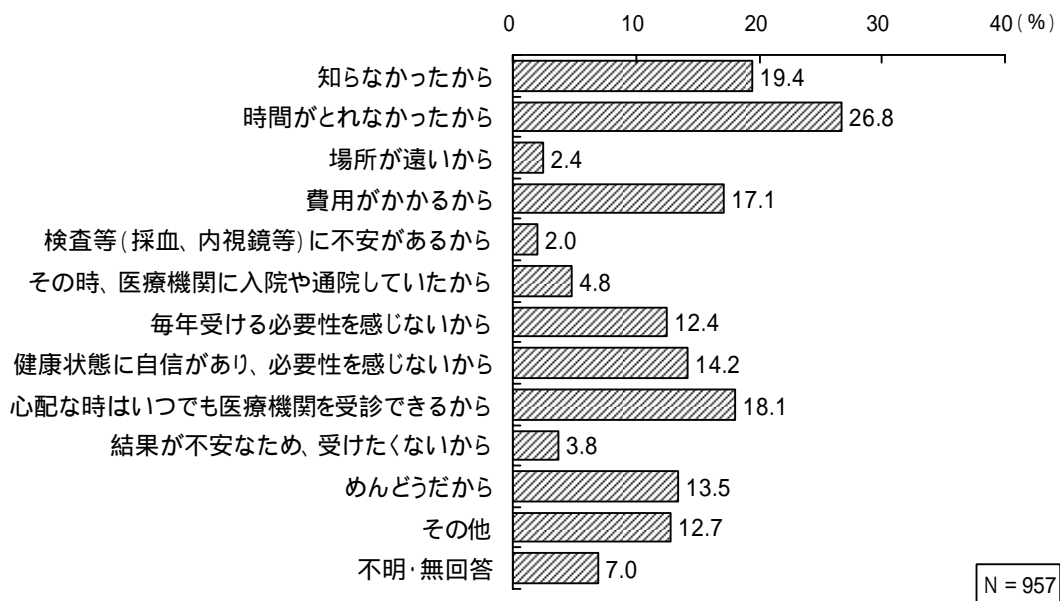
【性・年代別】

男女とも 20 歳代では「知らなかったから」が、女性の 30 歳代では「費用がかかるから」が、男性の 30～50 歳代と女性の 40 歳代では「時間がとれなかったから」が、男性の 60 歳以上、女性の 50 歳以上では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最も高くなっている。

4) 特定健康診査

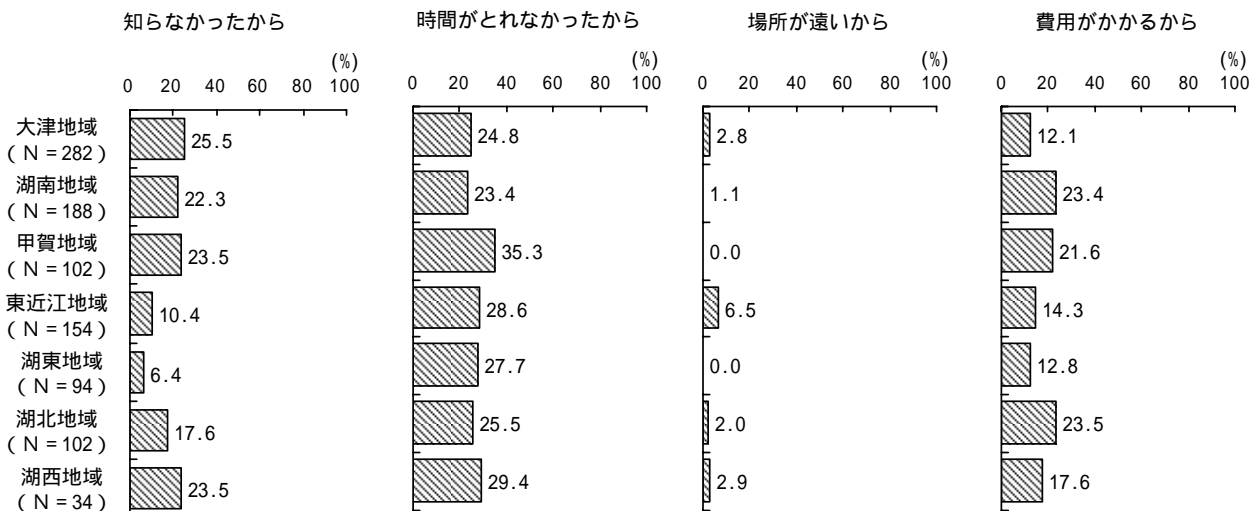
「時間がとれなかったから」が 26.8%

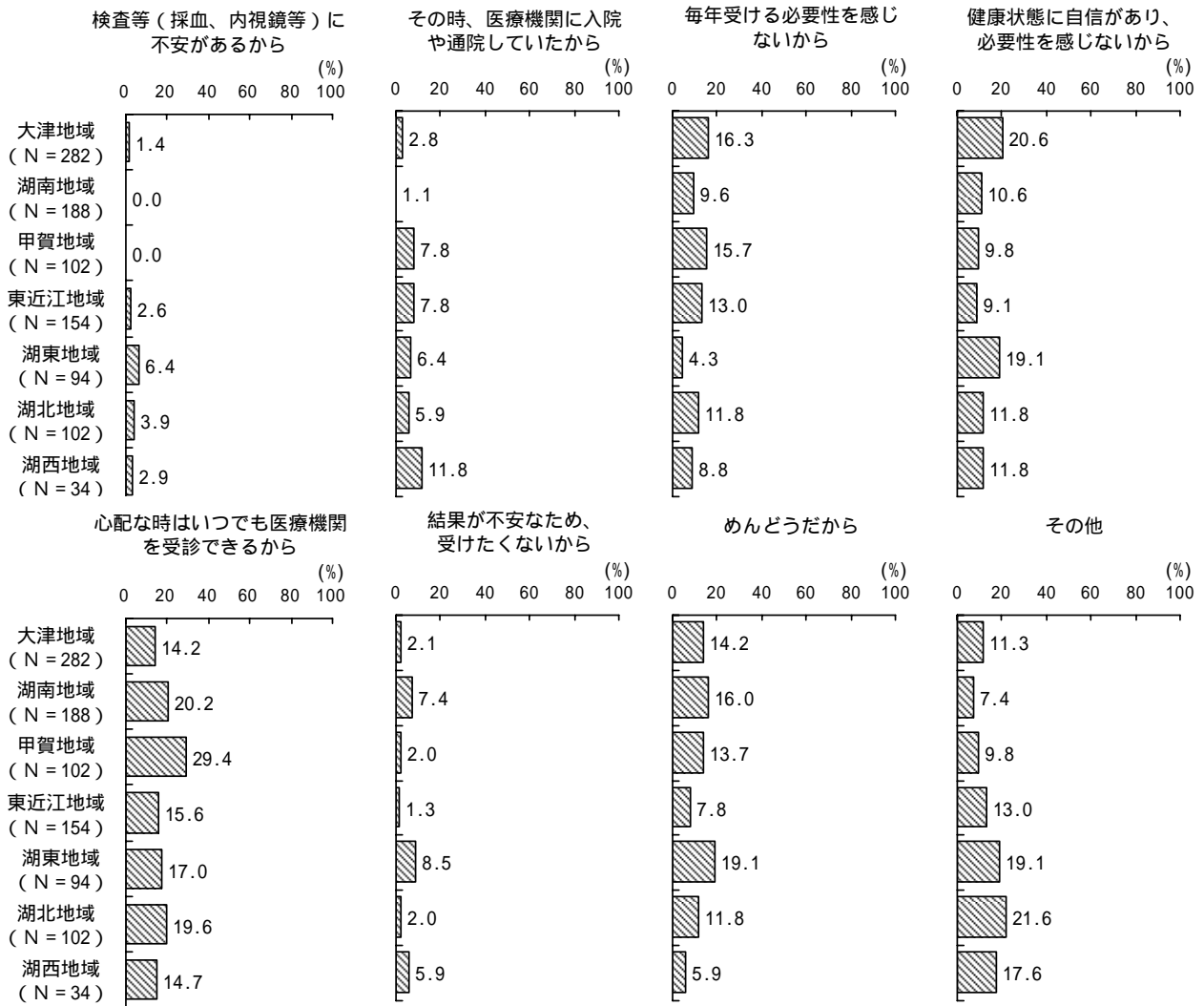
「時間がとれなかったから」が 26.8%と最も高く、次いで「知らなかったから」(19.4%)、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」(18.1%)、「費用がかかるから」(17.1%)の順となっている



【地域別】

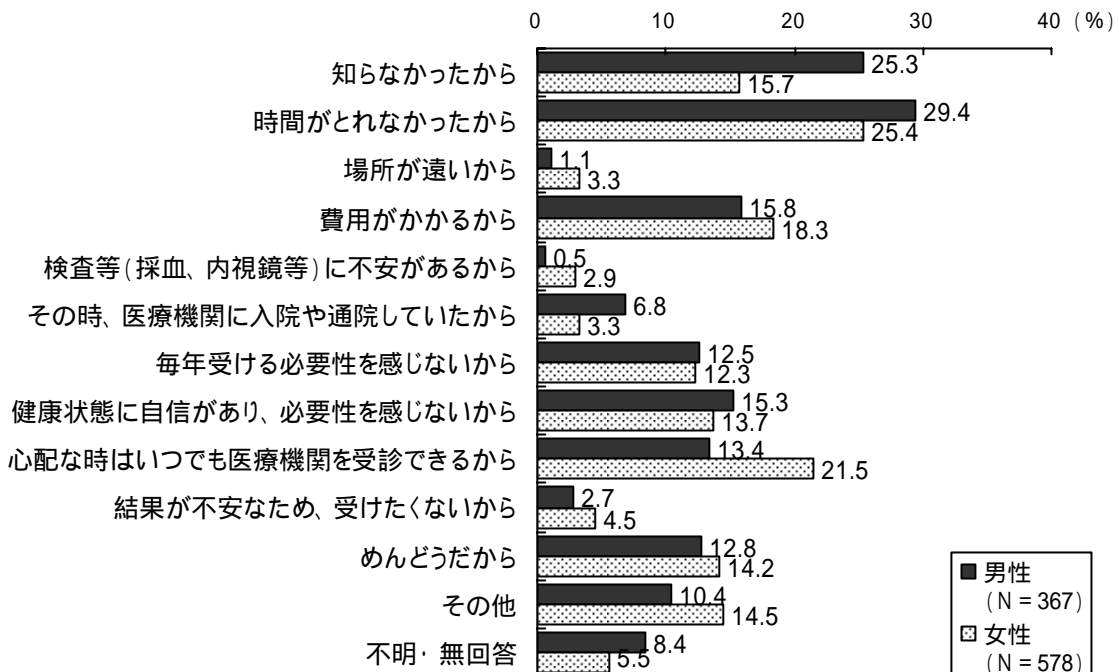
大津地域では「知らなかったから」が、湖南地域では「時間がとれなかったから」と「費用がかかるから」が同率で、その他の地域では「時間がとれなかったから」が最も高くなっている。





【性別】

男女とも「時間がとれなかったから」が最も高く男性 29.4%、女性 25.4%となっている。次いで男性は「知らなかったから」が、女性は「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が高くなっている。



【性・年代別】

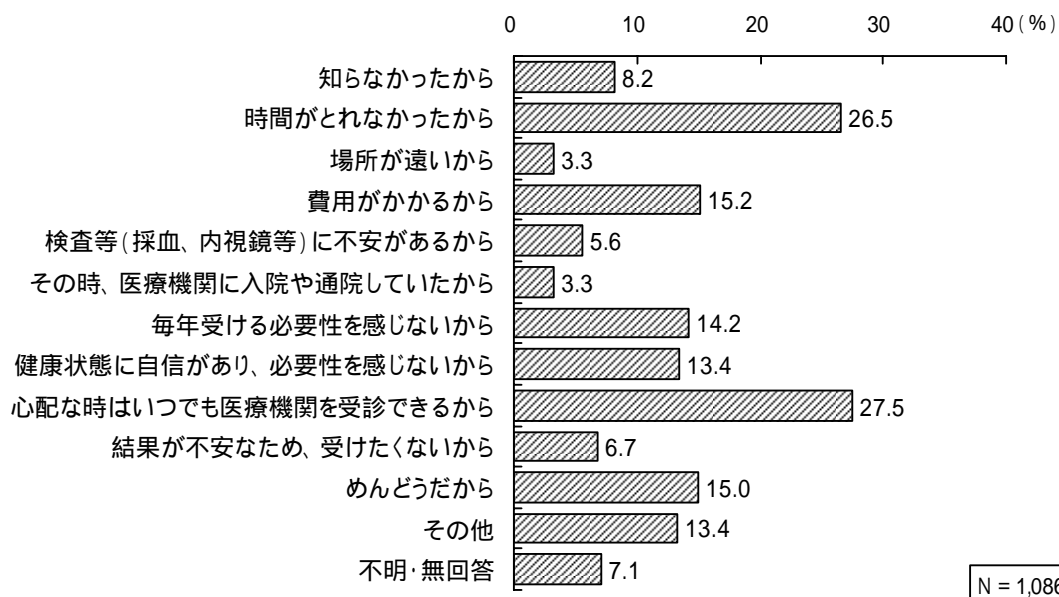
男女とも 20 歳代では「知らなかったから」が、男性の 60 歳以上では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が、男性の 30～50 歳代と女性の 40 歳代では「時間がとれなかったから」が最も高くなっている。女性の 30 歳代では「時間がとれなかったから」と「費用がかかるから」が、女性の 50 歳代では「時間がとれなかったから」と「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が同率で、女性の 60 歳代では「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」が最も高くなっている。

「費用がかかるから」は、男女とも 30～40 歳代で高く、「健康状態に自信があり、必要性を感じないから」は、男性は 20～30 歳代、女性は 60 歳以上で割合が高くなっている。

5) 子宮がん検診

「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が 27.5%

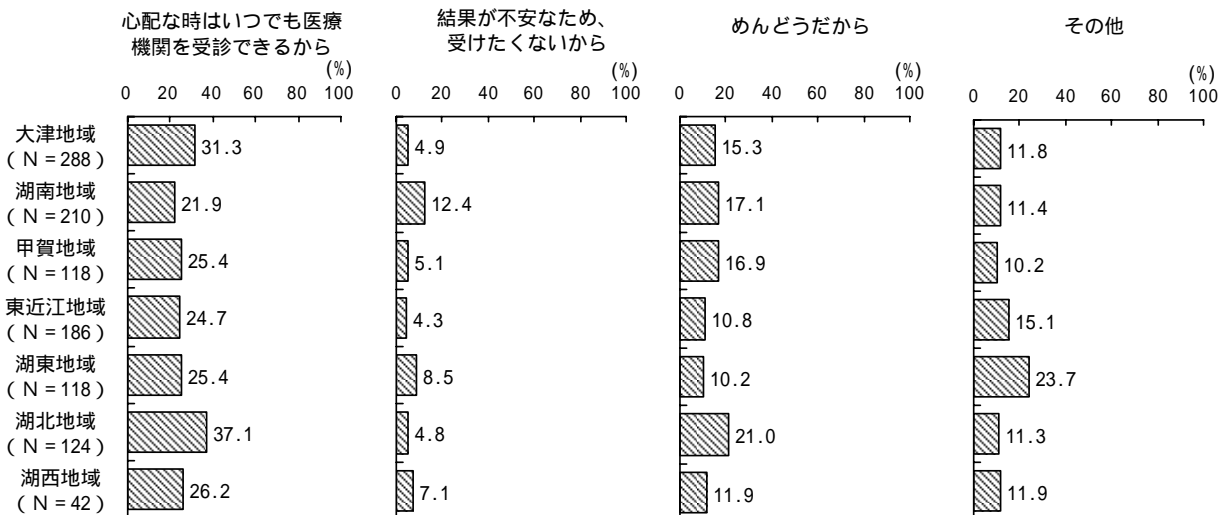
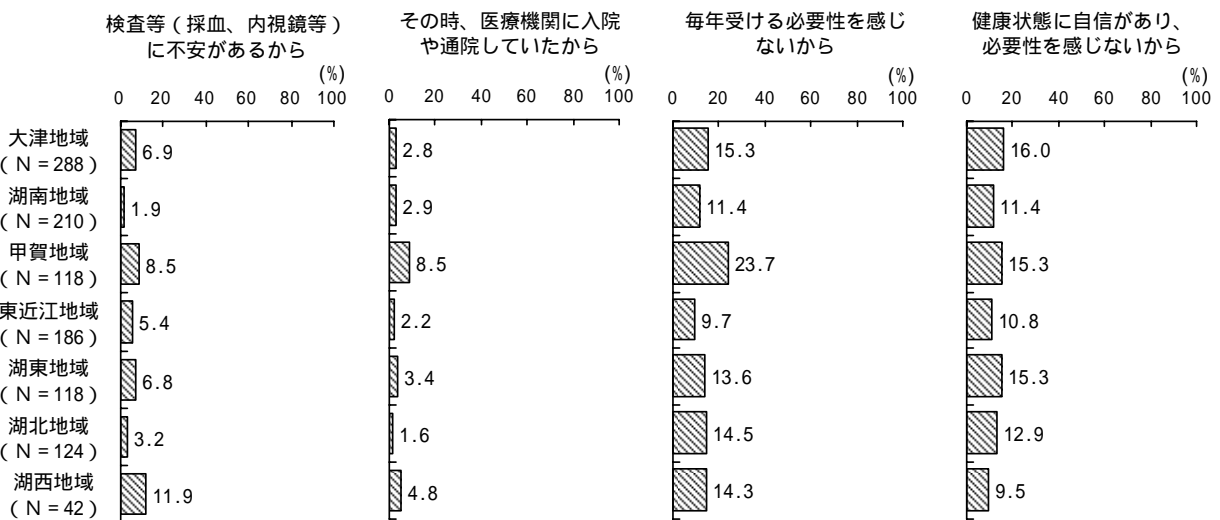
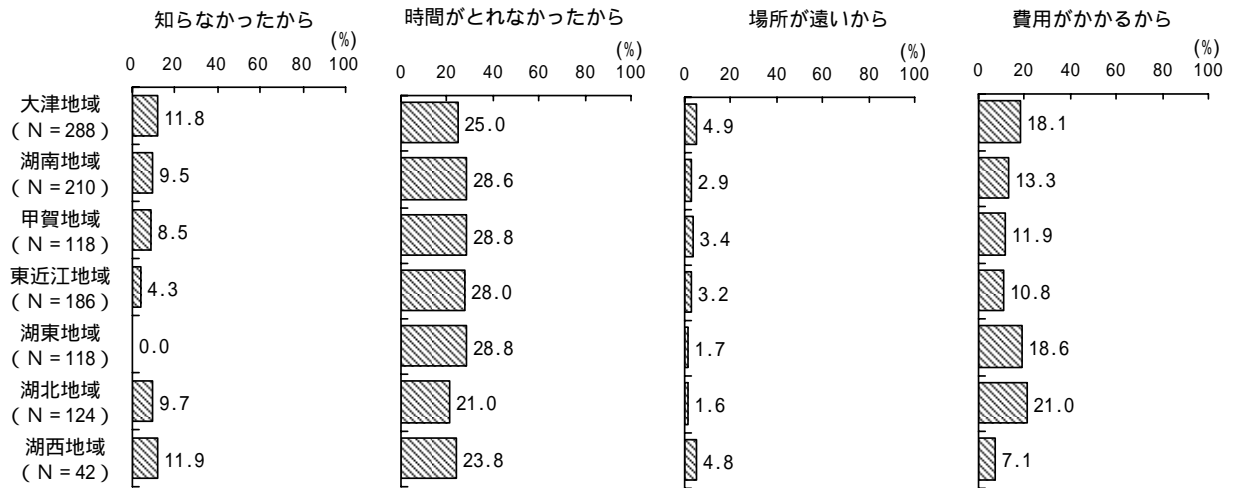
「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が 27.5%と最も高く、次いで「時間がとれなかったから」が 26.5%となっている。



【地域別】

大津・湖北・湖西地域では、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が、その他の地域では「時間がとれなかったから」が最も高くなっている。

また、「毎年受ける必要性を感じないから」は甲賀地域で 23.7%、「めんどうだから」は湖北地域で 21.0%、「結果が不安なため、受けたくないから」は湖南地域で 12.4%と他の地域に比べて高くなっている。「知らなかったから」は湖東地域で 0%となっている。



【年代別】

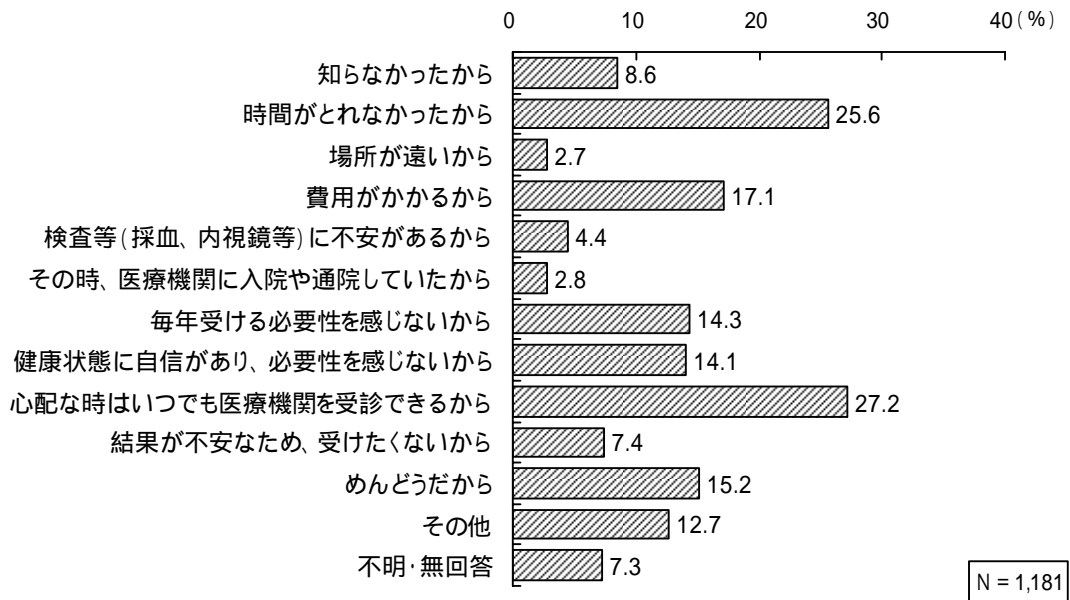
20 歳代では「知らなかったから」が、30～40 歳代では「時間がとれなかったから」が、50 歳以上では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最も高くなっている。

また、「検査等（採血、内視鏡等）に不安があるから」では 40 歳代で 11.2%と他の年代に比べて割合が高く、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」は年代が上がるにつれて、割合も高くなっている。

6) 乳がん検診

「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が 27.2%

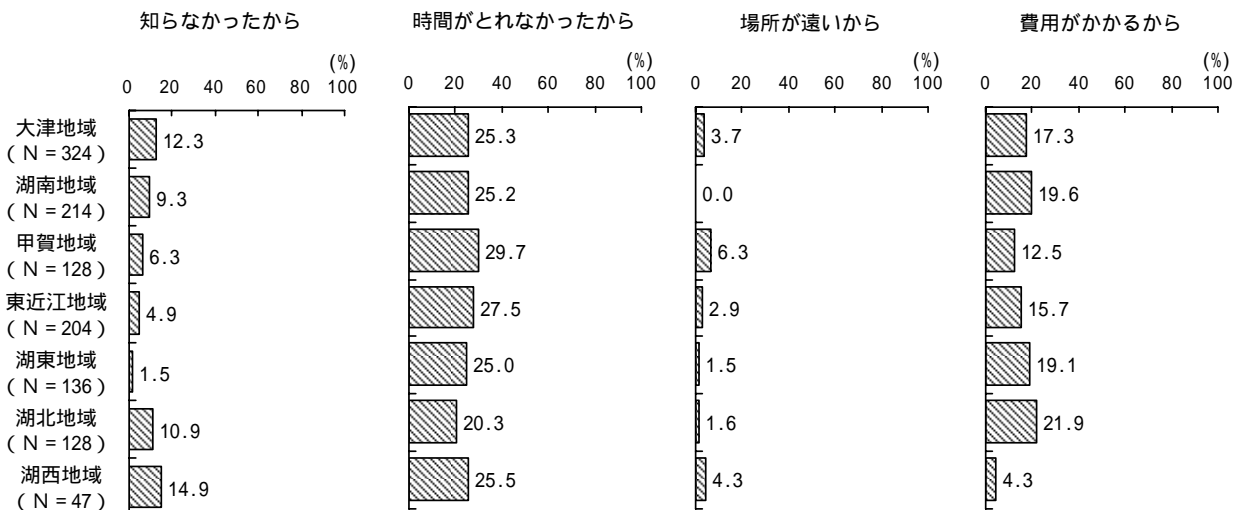
「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が 27.2%と最も高く、次いで「時間がとれなかったから」が 25.6%となっている。

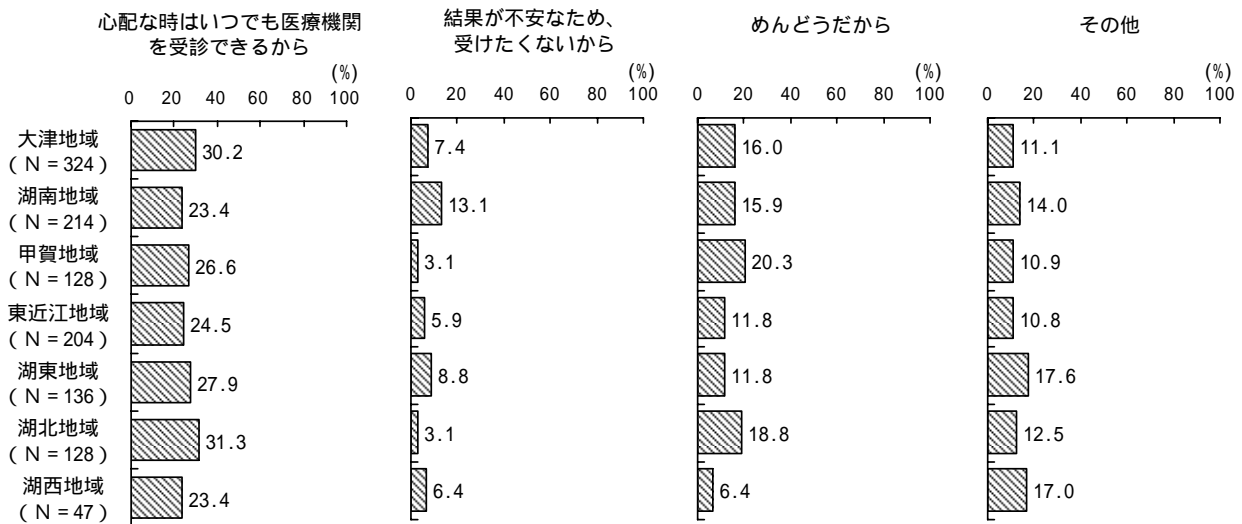
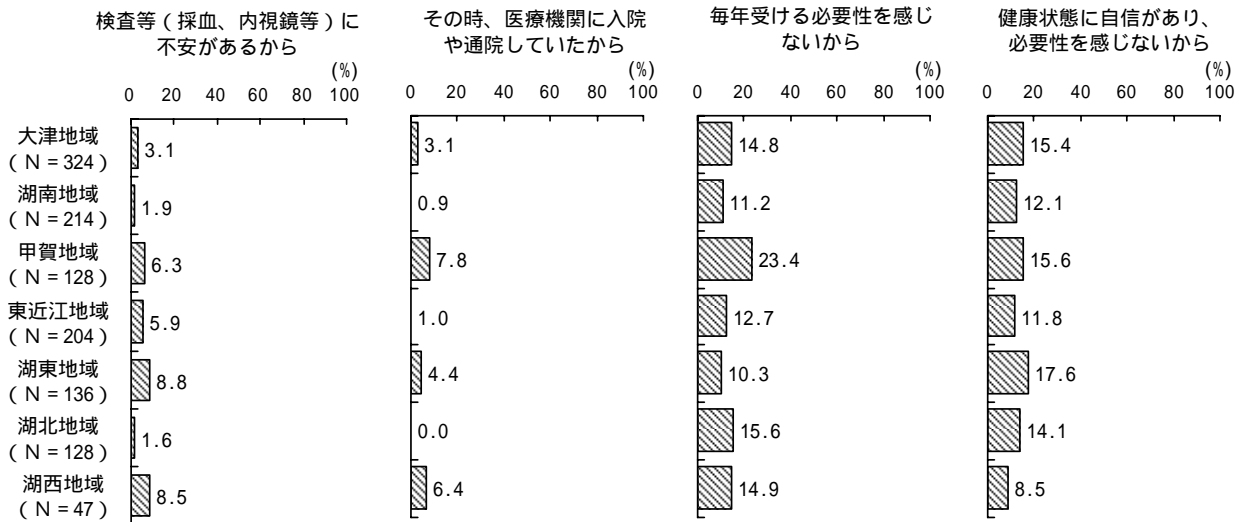


【地域別】

湖南・甲賀・東近江・湖西地域で「時間がとれなかったから」が、その他の地域では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最も高くなっている。

また、「毎年受ける必要性を感じないから」は甲賀地域で 23.4%、「結果が不安なため、受けたくないから」は湖南地域で 13.1%と他の地域に比べて割合が高くなっている。





【年代別】

20歳代では「費用がかかるから」、30～40歳代では「時間がとれなかったから」、50歳以上では「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最も高くなっている。

また、「知らなかったから」「費用がかかるから」は20歳代で最も高く、年代が下がるにつれて割合も低くなっている。逆に「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」は年代が上がるにつれて割合も高くなっている。

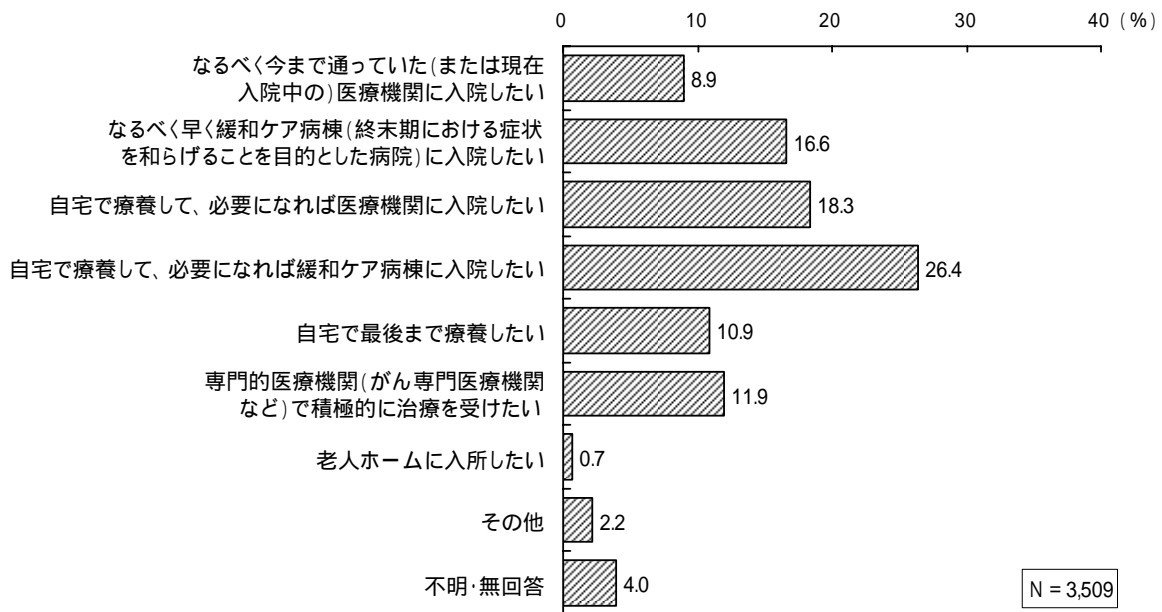
(2) 医療

6ヶ月以内に死期が迫っている状態での医療状況

問 14 仮に、あなたご自身が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく6ヶ月以内に死期が迫っている状態だとした場合、どのようにしたいと思われますか。(は1つだけ)

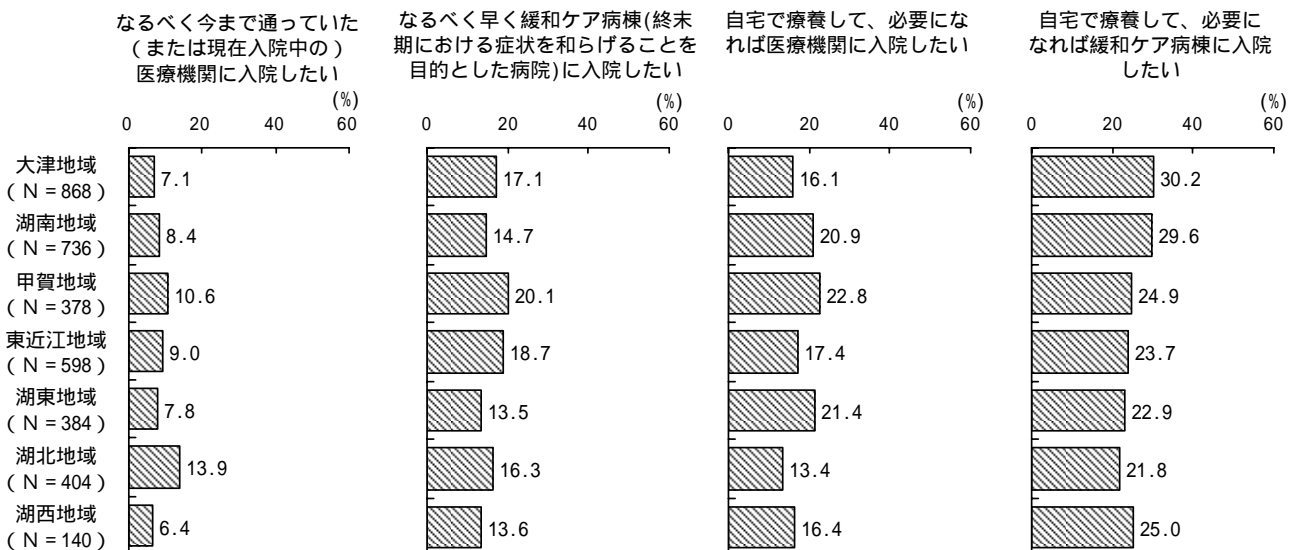
「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が26.4%

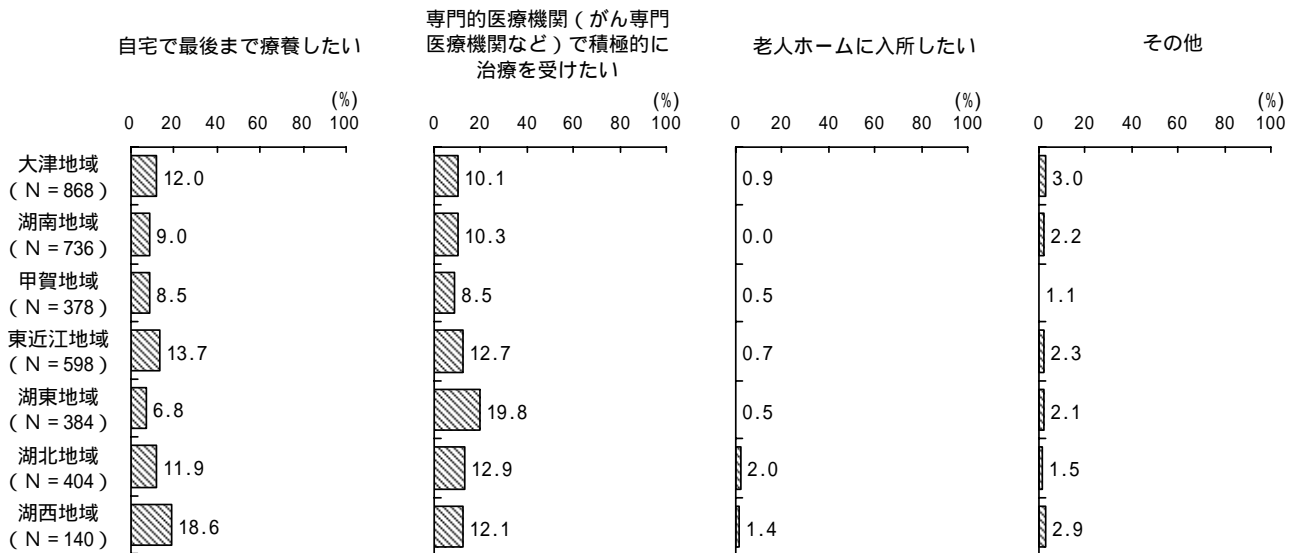
「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が26.4%と最も高く、次いで「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」(18.3%)、「なるべく早く緩和ケア病棟(終末期における症状を和らげることを目的とした病院)に入院したい」(16.6%)の順となっている。



【地域別】

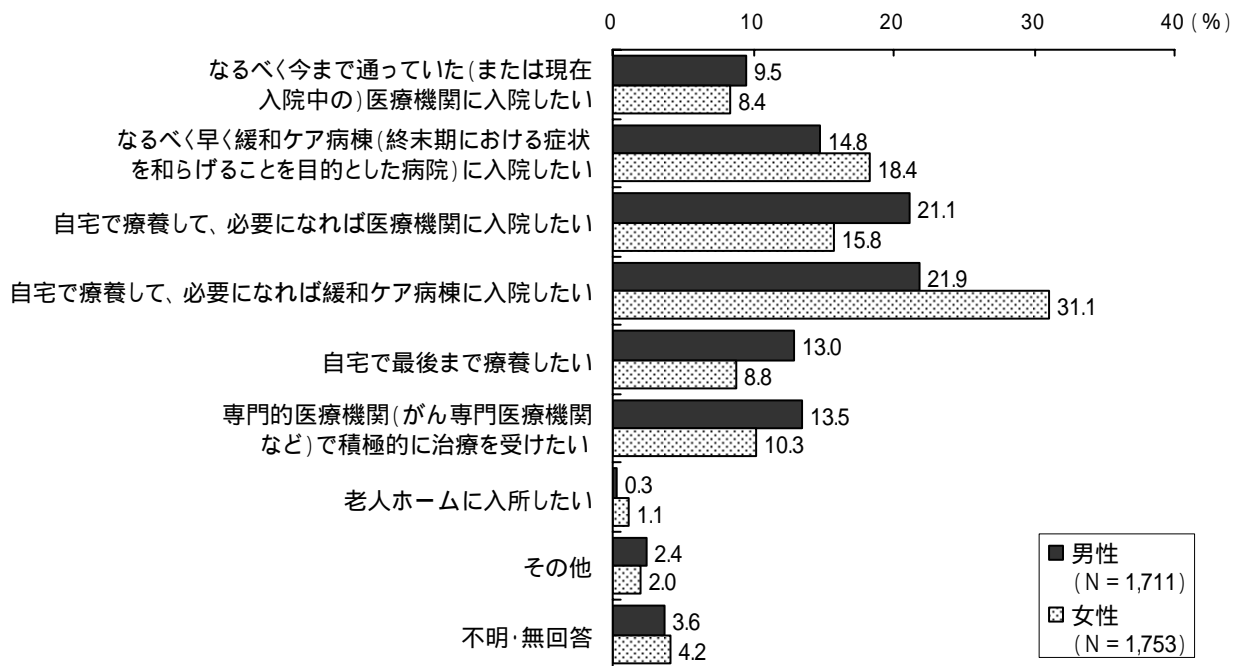
すべての地域で「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が最も高く、なかでも大津地域が30.2%と最も高くなっている。また、他の地域と比べて、「なるべく今まで通っていた(または現在入院中の)医療機関に入院したい」は湖北地域で13.9%、「自宅で最後まで療養したい」は湖西地域で18.6%、「専門的医療機関(がん専門医療機関など)で積極的に治療を受けたい」は湖東地域で19.8%と高くなっている。





【性別】

男女とも「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が最も高く、男性 21.9%、女性 31.1%で女性のほうが 9.2 ポイント高くなっている。



【性・年代別】

男性の 20 歳代と 60 歳以上では「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい」が、男性のそれ以外の年代と女性の 20～60 歳代では「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい」が、女性の 70 歳以上では「なるべく今まで通っていた(または現在入院中の)医療機関に入院したい」が最も高くなっている。

「なるべく今まで通っていた(または現在入院中の)医療機関に入院したい」は、男女とも 70 歳以上が他の年代に比べ割合が高くなっている。

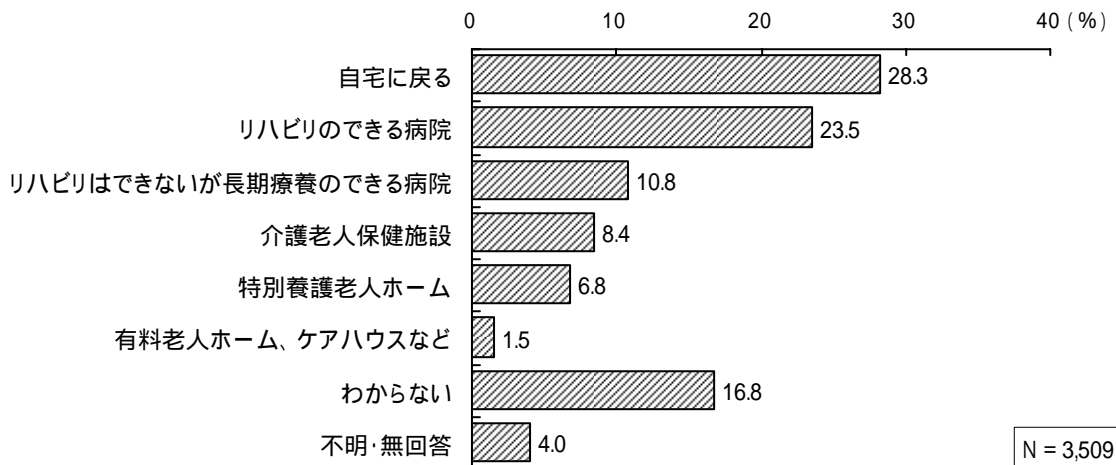
生活あるいは人生の最後（看取り）を迎えたい場所

問 15 もしあなたが次のような状態になったときに、生活あるいは人生の最後（看取り）を迎えたいと思う場所はどこですか。1～3の項目について、右の欄の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。（それぞれの項目については1つずつ）

1) 脳血管障害等により入院治療し、これ以上改善が見込めず、要介助状態で「自宅に帰るように」と退院を勧められたとき

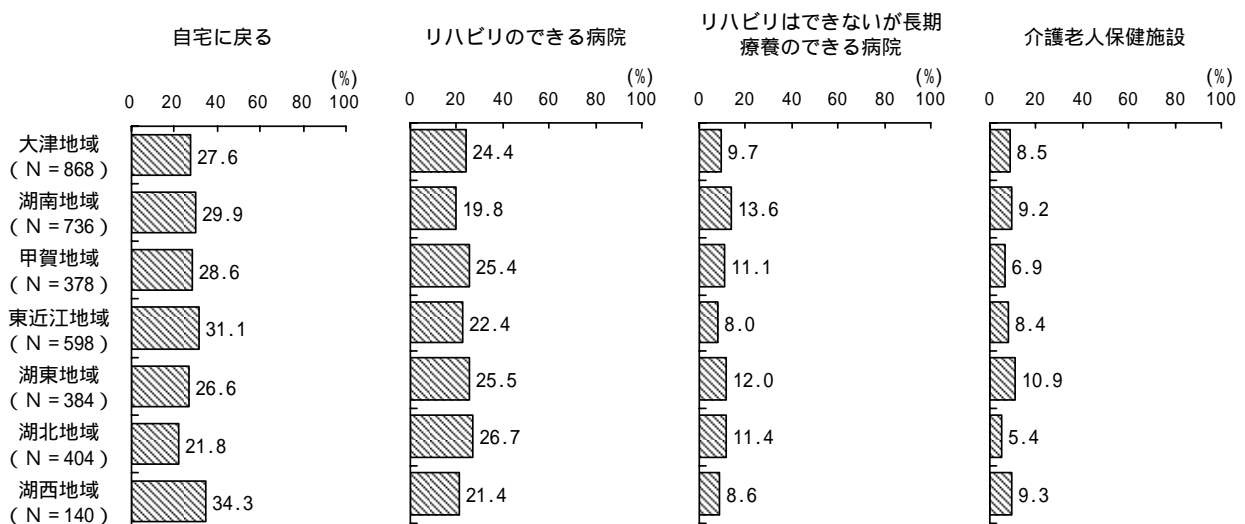
「自宅に戻る」が28.3%

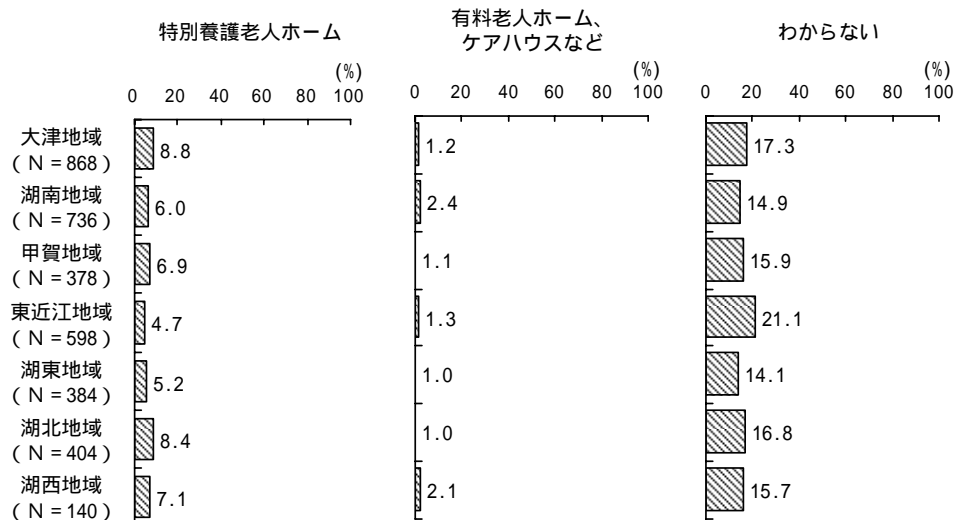
「自宅に戻る」が28.3%と最も高く、次いで「リハビリのできる病院」(23.5%)の順となっている。



【地域別】

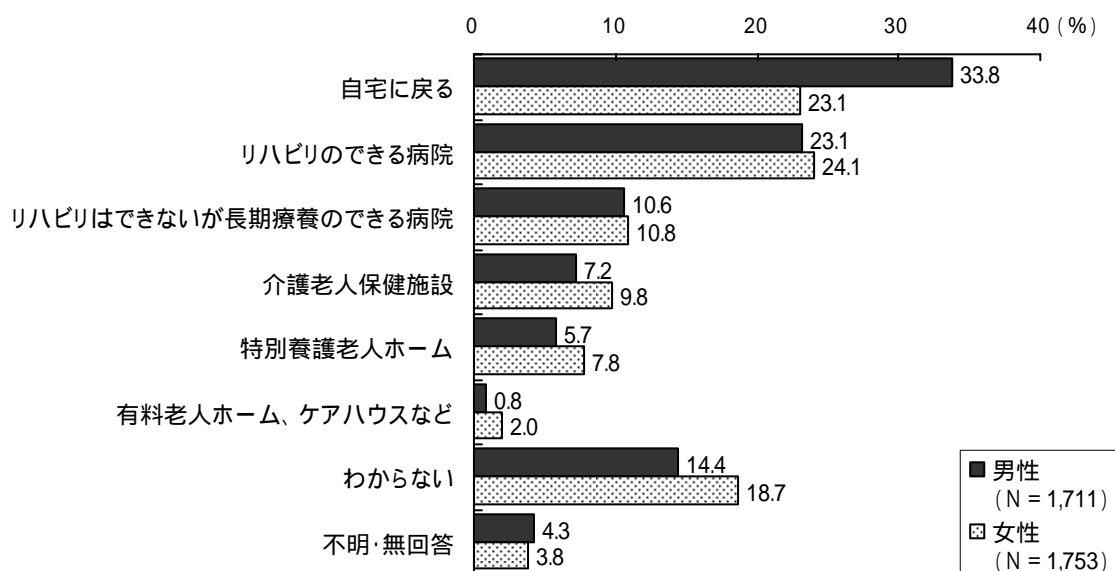
湖北地域では「リハビリのできる病院」が26.7%と最も高く、その他の地域では「自宅に戻る」が最も高くなっている。





【性別】

男性では「自宅に戻る」が33.8%、女性では「リハビリのできる病院」が24.1%と最も高くなっており、「自宅に戻る」は男性のほうが10.7ポイント高くなっている。



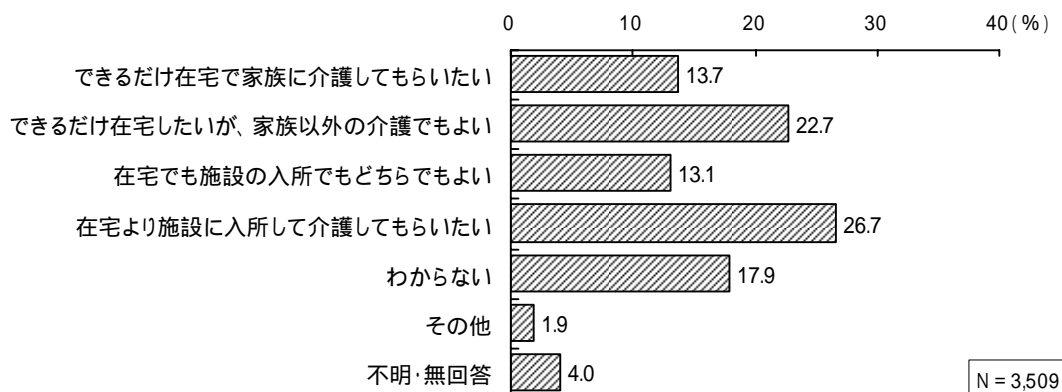
【性・年代別】

男性はすべての年代で「自宅に戻る」が最も高く3割以上となっている。女性は20歳代と70歳以上で「自宅に戻る」が、30~60歳代で「リハビリのできる病院」が最も高くなっている。男女ともに20歳代では「自宅に戻る」が他の年代よりも割合が高く、4割を超えている。

2) その後、さらに介護を必要とする状態になったとき

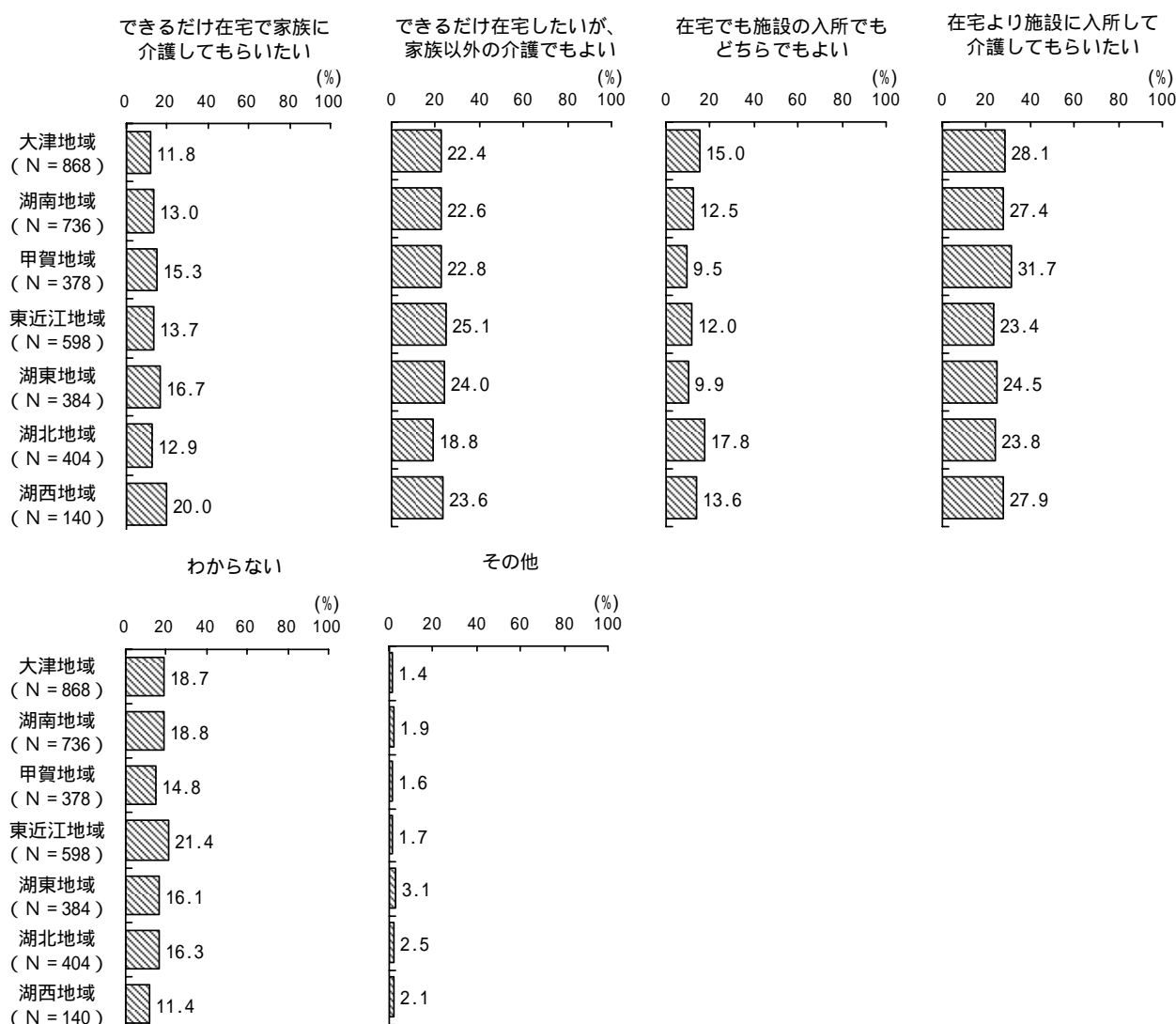
「在宅より施設に入所して介護してもらいたい」が26.7%

「在宅より施設に入所して介護してもらいたい」が26.7%と最も高く、次いで「できるだけ在宅したいが、家族以外の介護でもよい」が22.7%となっている。



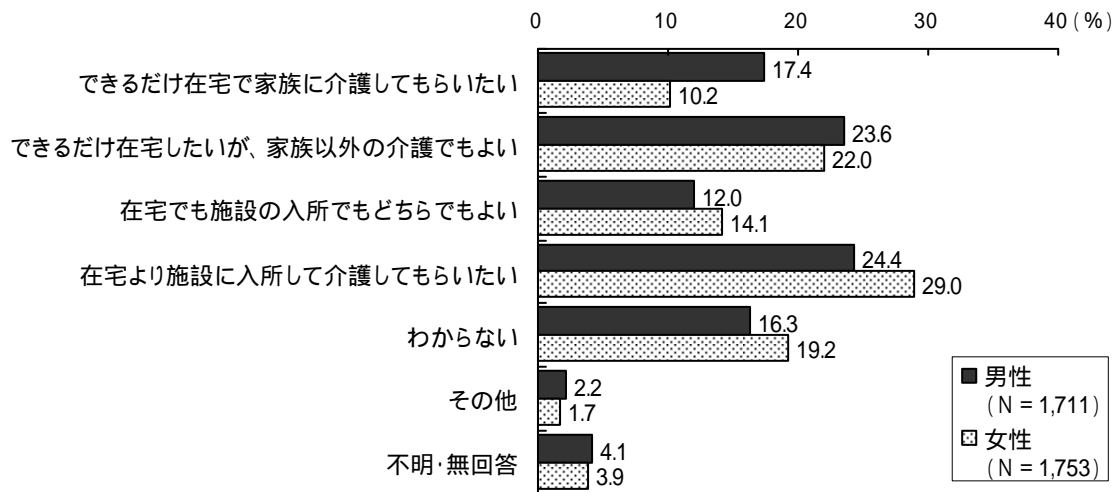
【地域別】

東近江地域では「できるだけ在宅したいが、家族以外の介護でもよい」が、その他の地域では「在宅より施設に入所して介護してもらいたい」が最も高くなっている。また、「できるだけ在宅で家族に介護してもらいたい」は湖西地域で割合が高くなっている。



【性別】

男女とも「在宅より施設に入所して介護してもらいたい」が最も高く、男性 24.4%、女性 29.0% で、男性よりも女性のほうが 4.6 ポイント高くなっている。2 番目に高いのは男女とも「できるだけ在宅したいが、家族以外の介護でもよい」となっている。



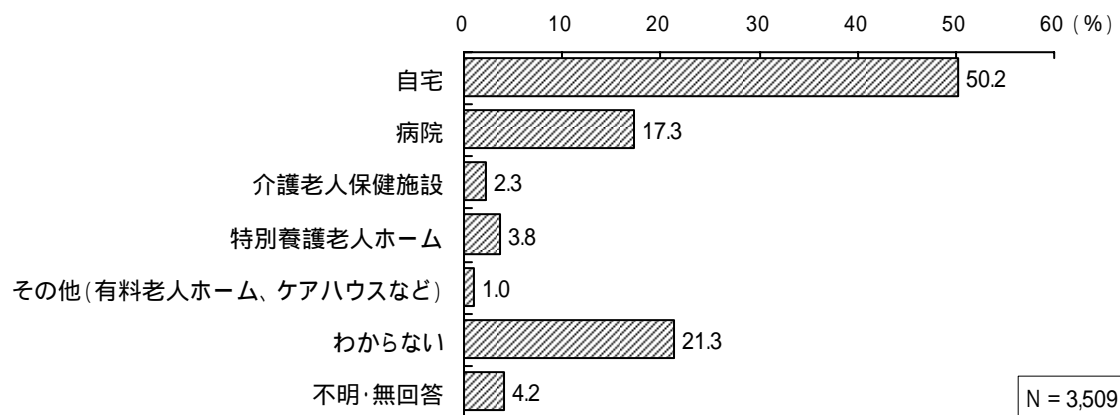
【性・年代別】

男性の 20～30 歳代と 60 歳代で「できるだけ在宅したいが、家族以外の介護でもよい」が、40～50 歳代・70 歳以上で「在宅より施設に入所して介護してもらいたい」が、女性の 20 歳代で「わからない」が、女性のそれ以外の年代では「在宅より施設に入所して介護してもらいたい」が最も高くなっている。

3) 人生の最後（看取り）を迎えるとき

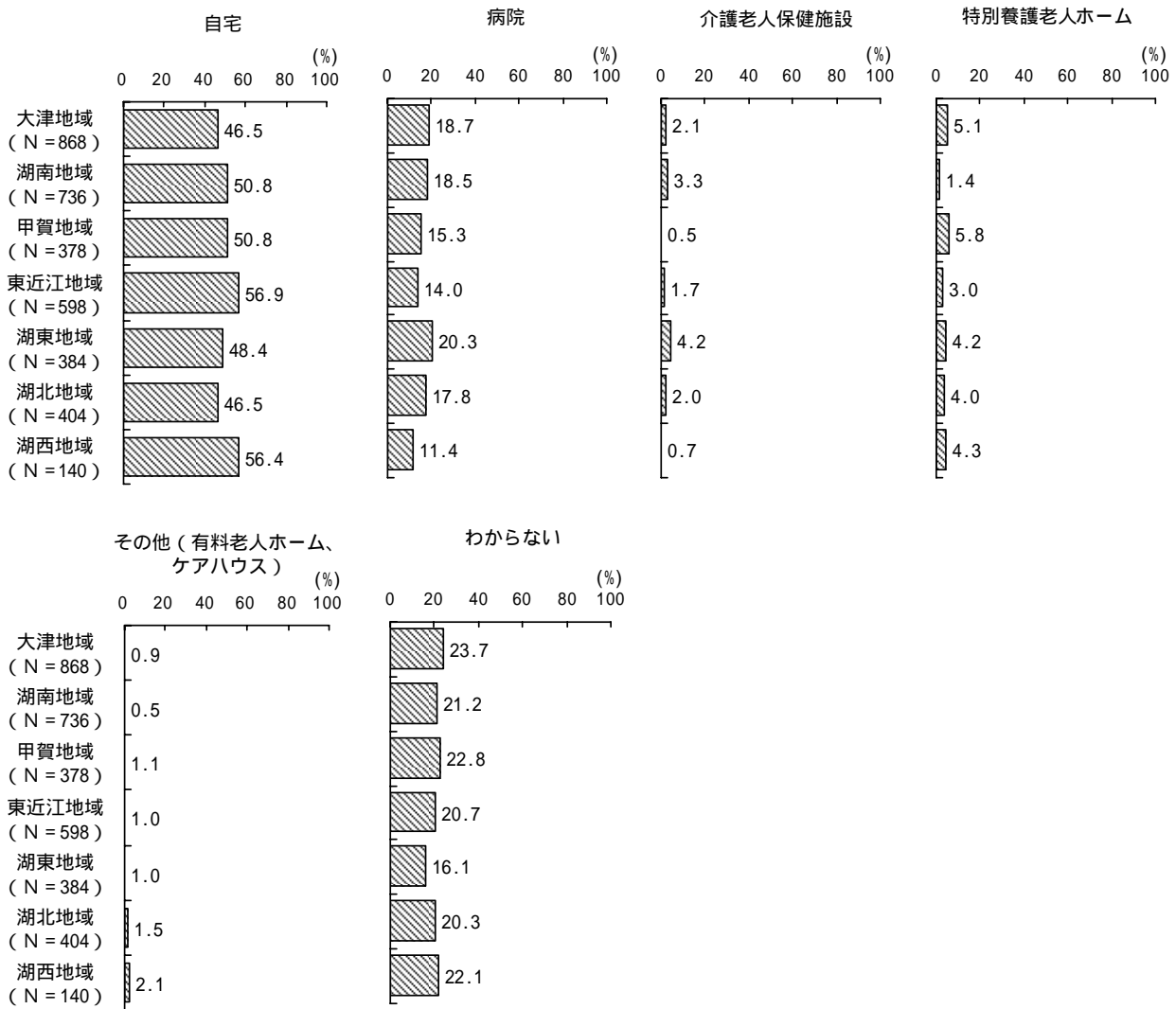
「自宅」が 5 割を超える

「自宅」が 50.2% と最も高く、次いで「わからない」が 21.3%、「病院」17.3% の順となっている。



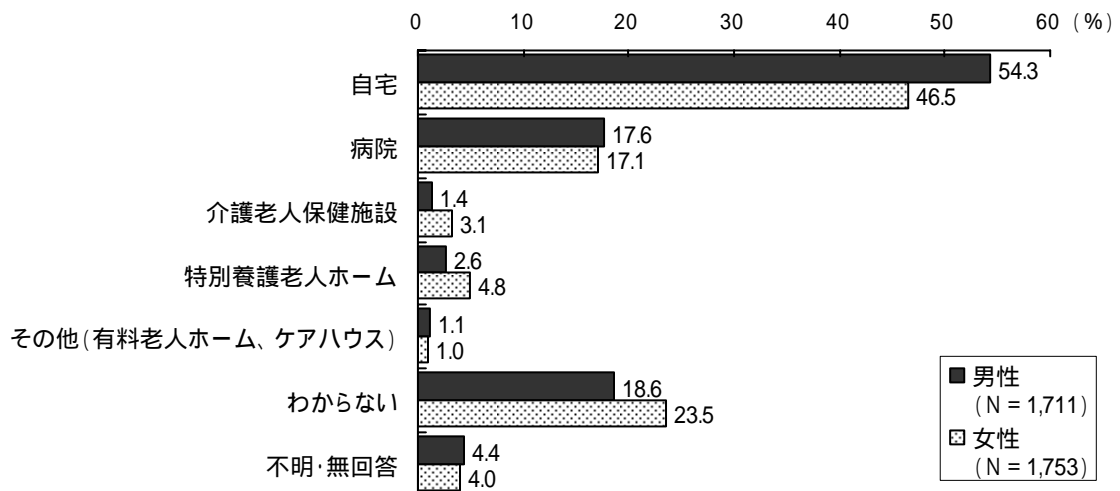
【地域別】

すべての地域で「自宅」が最も高くなっている。次いで、湖東地域では「病院」が、その他の地域では「わからない」が高くなっている。



【性別】

男女とも「自宅」が最も高く、男性 54.3%、女性 46.5%で、男性のほうが7.8ポイント高くなっている。



【性・年代別】

男女ともすべての年代で「自宅」が最も高く、20～30歳代で他の年代より割合が高くなっている。

(3) 福祉

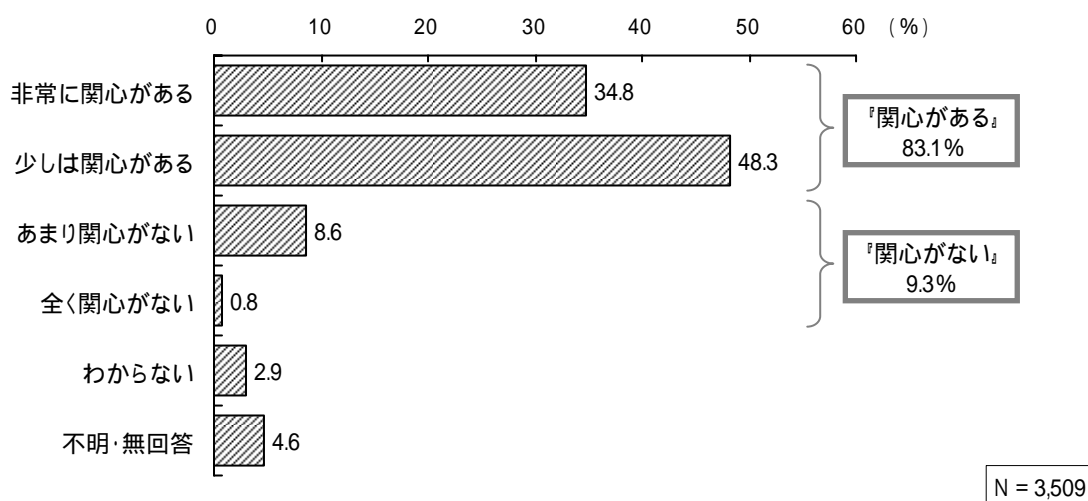
福祉に関する意識と行動

問 16 福祉に関する意識と行動について、あなたはどうお考えですか。1～4の項目について、右の欄の中からあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。(それぞれの項目について は1つずつ)

1) 福祉に関する関心度

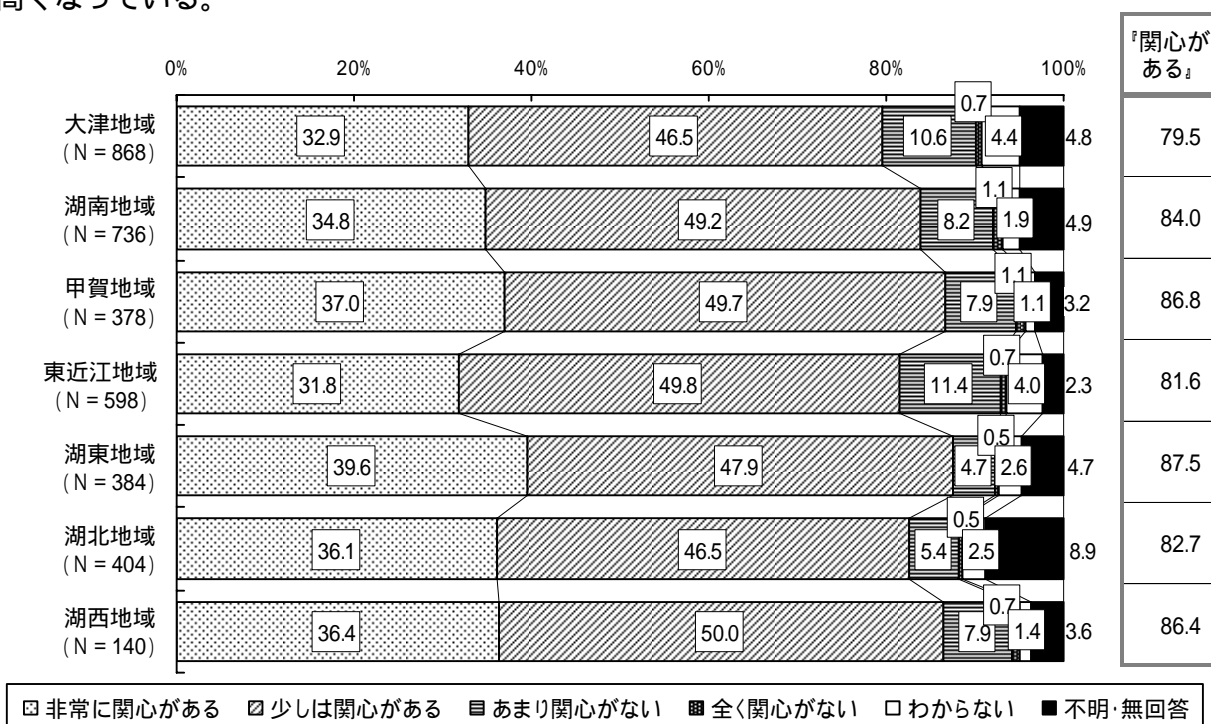
関心度は8割以上

「少しは関心がある」が48.3%と最も高く、次いで「非常に関心がある」(34.8%)となっている。『関心がある』(「非常に関心がある」と「少しは関心がある」の合計)は83.1%となっている。



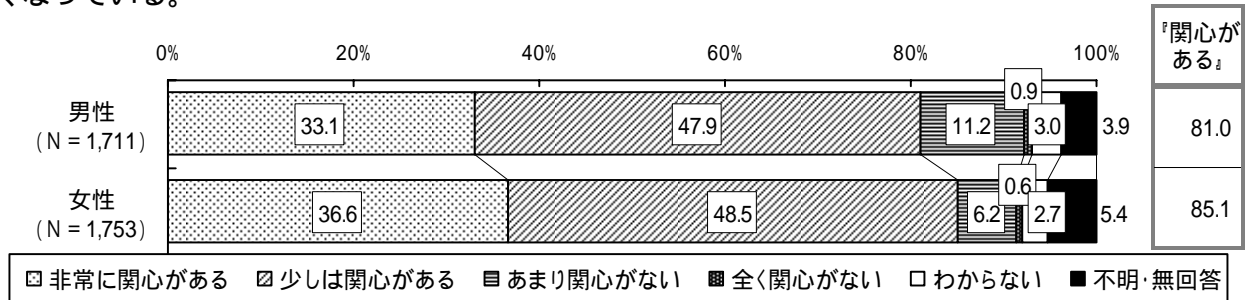
【地域別】

すべての地域において『関心がある』は75%を超えており、なかでも湖東地域が87.5%と最も高くなっている。



【性別】

男性の『関心がある』は81.0%、女性は85.1%となっており、女性のほうが4.1ポイント高くなっている。



【性・年代別】

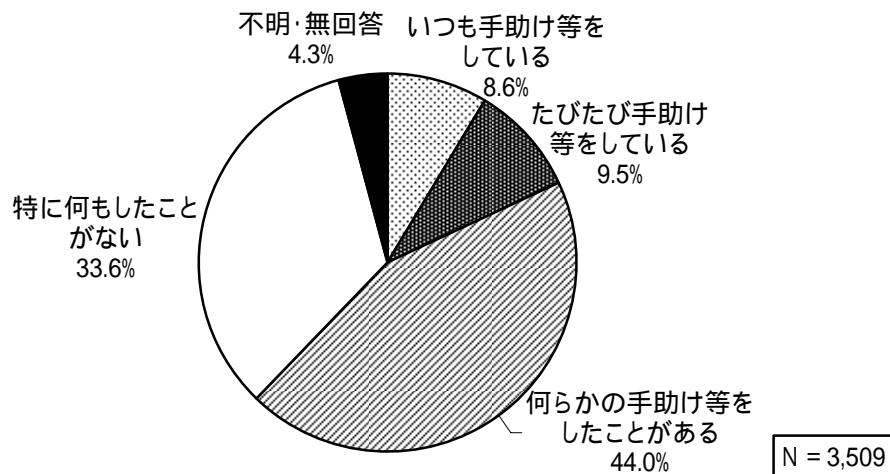
男女とも70歳以上では、「非常に興味がある」が、その他の年代では「少しは興味がある」が最も高くなっている。

また、『関心がある』についてみると、男性は20歳代が57.3%と最も低く、年代が上がるにつれて、『関心がある』割合も高くなっており、70歳以上で88.9%と最も高くなっている。女性はすべての年代で75%を超えている。

2) 高齢者や障害者等への手助け等の経験

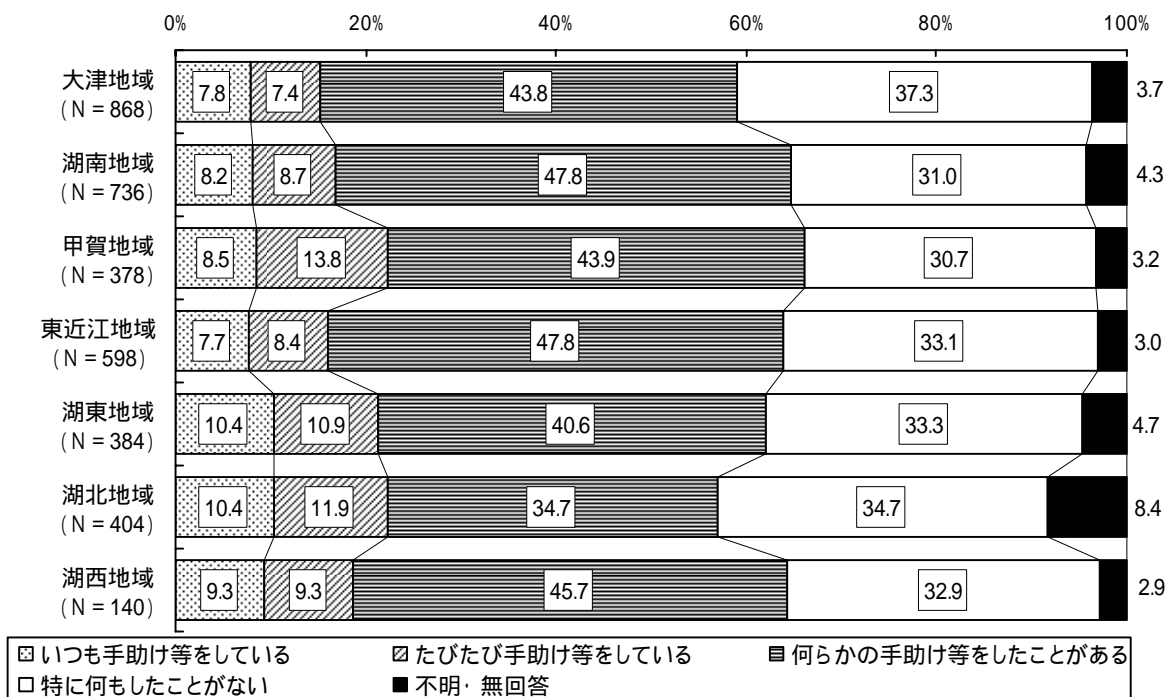
「何らかの手助け等をしたことがある」が44.0%

「何らかの手助け等をしたことがある」が44.0%と最も高く、次いで「特に何もしたことがない」が33.6%となっている。『手助けの経験』(「いつも手助け等をしている」「たびたび手助け等をしている」「何らかの手助け等をしたことがある」の合計)は62.1%となっている。



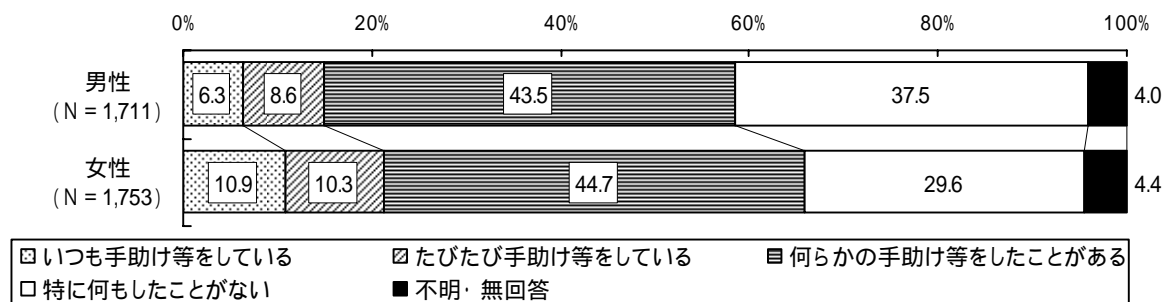
【地域別】

湖北地域では「何らかの手助け等をしたことがある」と「特に何もしたことがない」が同率で最も高くなっており、その他の地域では「何らかの手助け等をしたことがある」が最も高く 4割を超えている。



【性別】

「いつも手助け等をしている」「たびたび手助け等をしている」「何らかの手助け等をしたことがある」はいずれも女性のほうが割合が高くなっている。



【性・年代別】

男性の 40 歳代で「特に何もしたことがない」が、男性のそれ以外の年代と女性のすべての年代では「何らかの手助け等をしたことがある」が最も高くなっている。

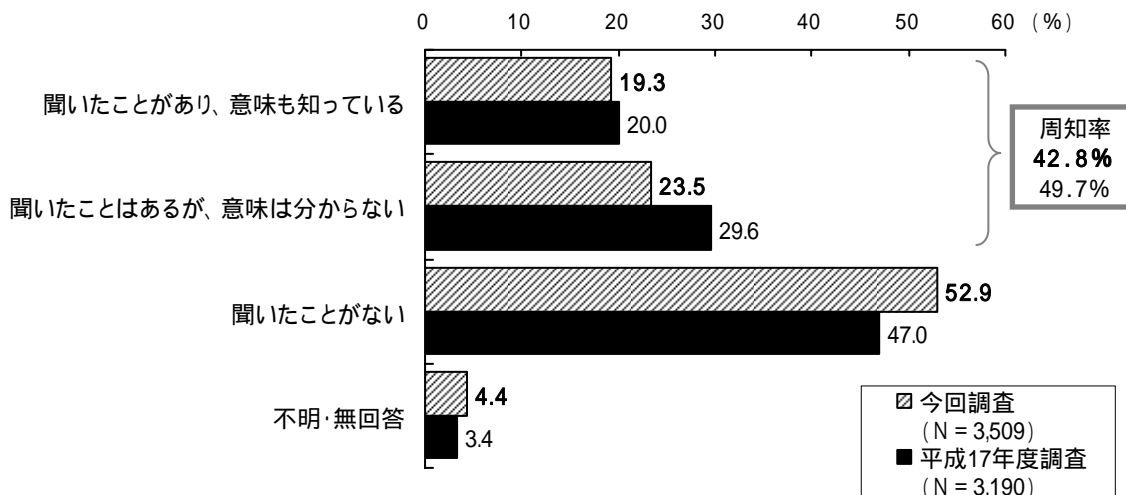
『日常的な手助けの経験』（「いつも手助け等をしている」と「たびたび手助け等をしている」の合計）は、女性の 50 歳代で最も高く 28.5%となっている。

3) ノーマライゼーションの認知度

周知率は42.8%

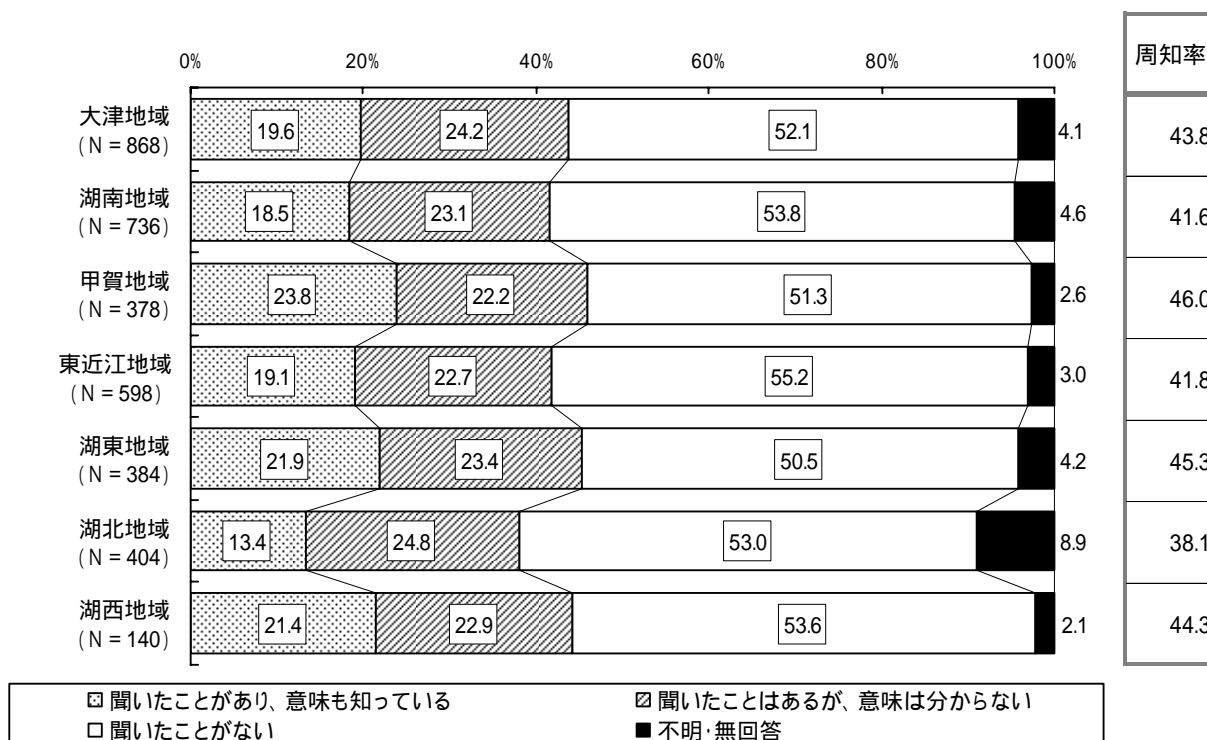
「聞いたことがない」が52.9%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、意味は分からない」が23.5%となっている。『周知率』（「聞いたことがあり、意味も知っている」と「聞いたことはあるが、意味は分からない」の合計）は42.8%となっている。

平成17年度調査と比較すると、『周知率』は6.9ポイント低くなっている。



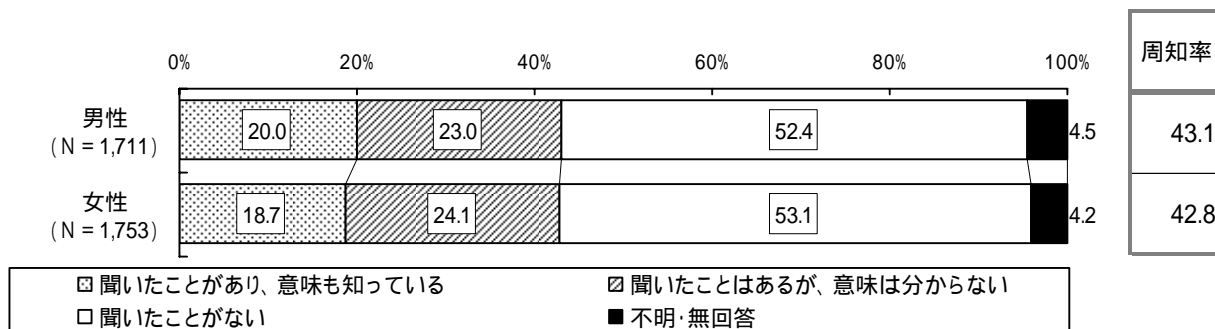
【地域別】

すべての地域において「聞いたことがない」が最も高く5割を超えている。『周知率』は湖北地域を除くすべての地域で4割を超えている。



【性別】

『周知率』は男性が43.1%、女性は42.8%となっており、男女による大きな差は見られない。



【性・年代別】

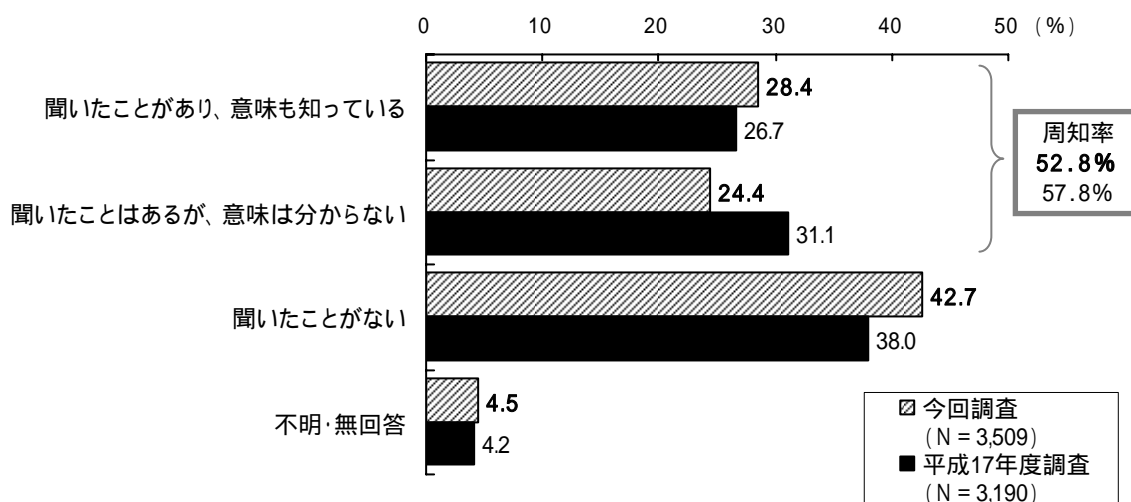
『周知率』は、男性は50歳代の47.0%、女性は20歳代の56.8%が最も高くなっている。20～40歳代では『周知率』は女性のほうが高くなっているが、50歳以上では男性のほうが高くなっている。

4) ユニバーサルデザインの認知度

周知率は52.8%

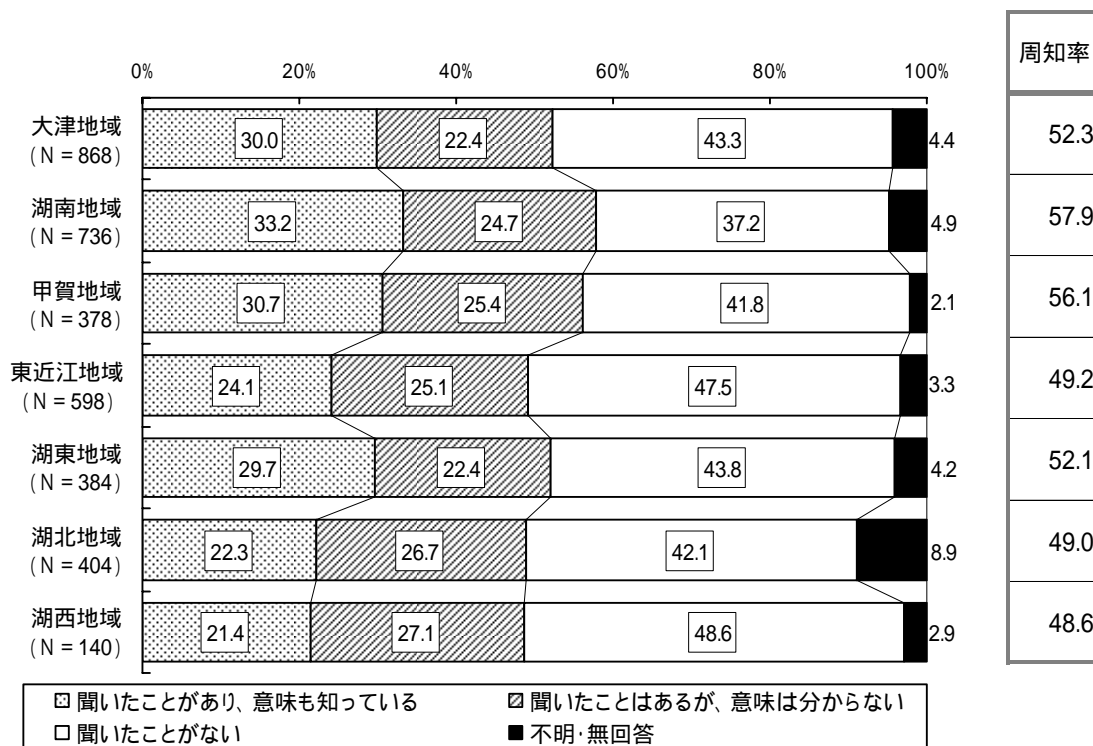
「聞いたことがない」が42.7%と最も高く、次いで「聞いたことがあり、意味も知っている」が28.4%となっている。『周知率』（「聞いたことがあり、意味も知っている」と「聞いたことはあるが、意味は分からない」の合計）は52.8%となっている。

平成17年度調査と比較すると、「聞いたことがあり、意味も知っている」は1.7ポイント高くなっている。また、「聞いたことはあるが、意味は分からない」が6.7ポイント減り、『周知率』は5.0ポイント低くなっている。



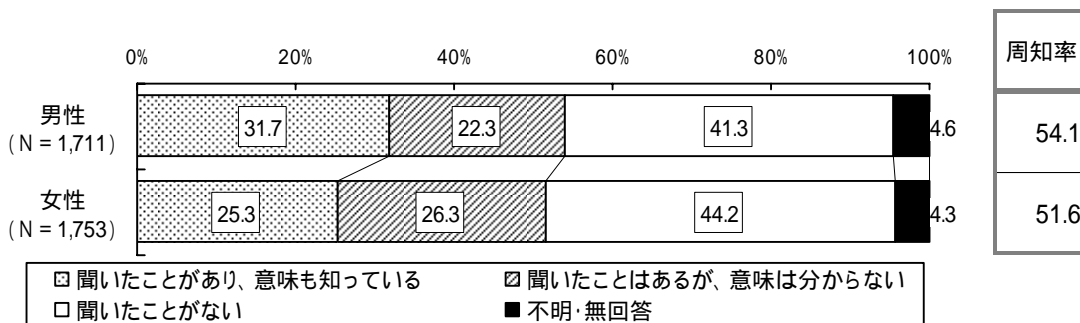
【地域別】

「聞いたことがあり、意味も知っている」、「周知率」ともに湖南地域が最も高く、次いで甲賀地域の順となっている。



【性別】

男性の『周知率』は54.1%、女性は51.6%となっており、男性のほうが2.5ポイント高くなっている。



【性・年代別】

男性の20～40歳代と女性の30～40歳代では「聞いたことがあり、意味も知っている」が、男女ともにその他の年代では「聞いたことがない」が最も高くなっている。『周知率』は、男性は40歳代(68.4%)、女性は30歳代(67.3%)が最も高くなっており、男女とも20～40歳代で『周知率』が6割を超えている。

健康福祉関連サービスの利用実態と満足度

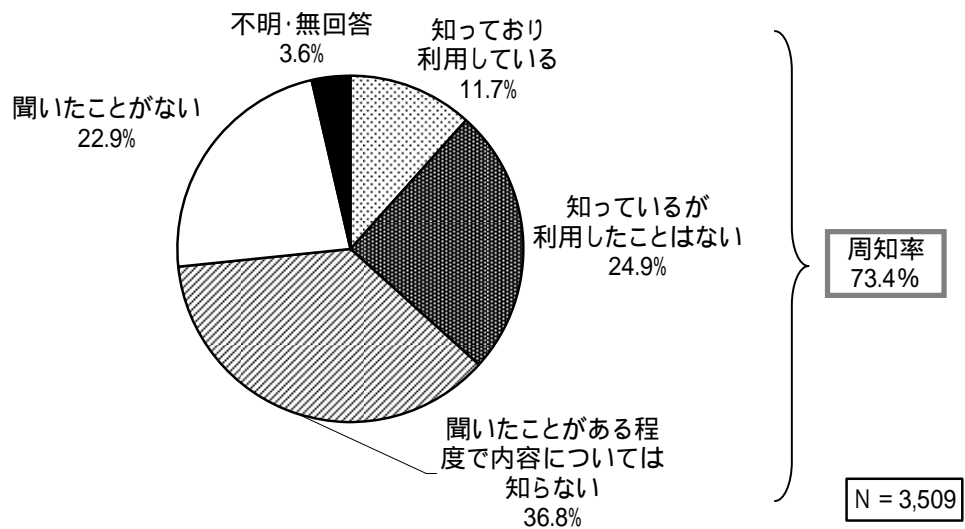
問 17 健康福祉関連サービスの利用実態と満足度について、あなたはどのように思われますか。それぞれ該当する項目に1つ をつけてください。(それぞれの項目については1つずつ)

1) 健康福祉関連サービスの認知度

周知率は7割以上

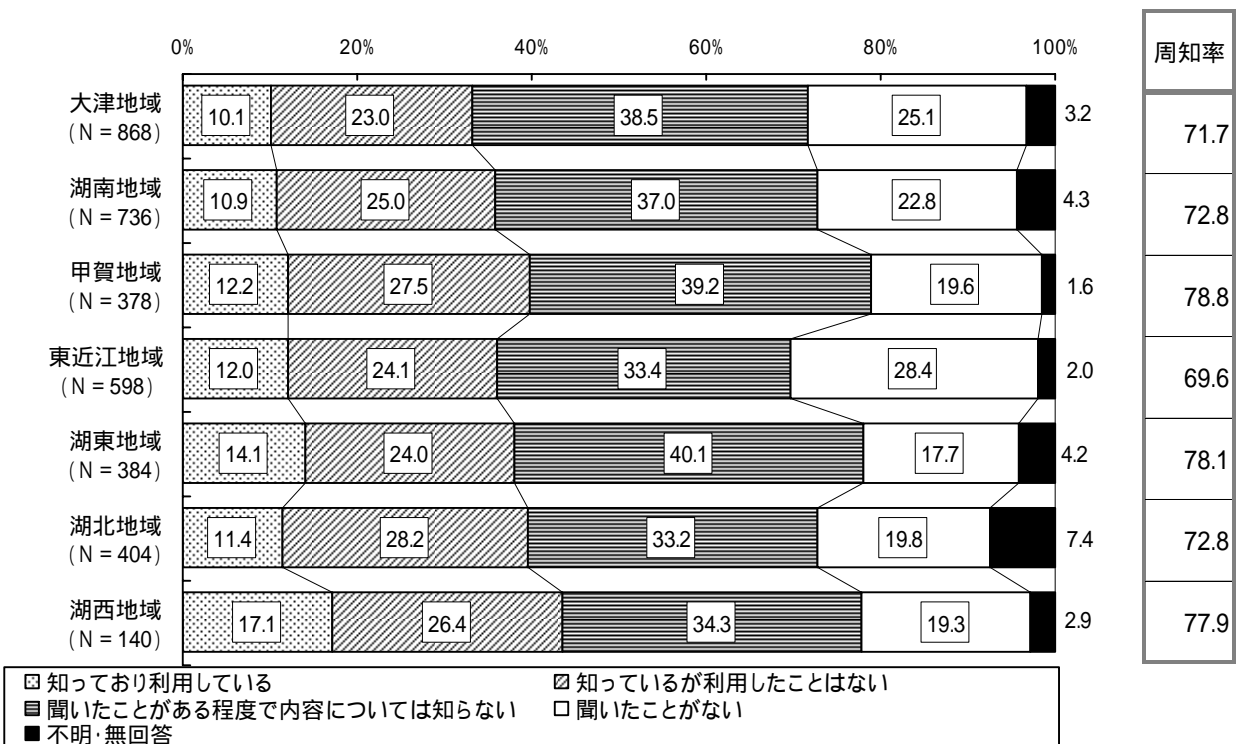
「聞いたことがある程度で内容については知らない」が36.8%で最も高い。

『周知率』(「知っており利用している」「知っているが利用したことはない」「聞いたことがある程度で内容については知らない」の合計)は73.4%で、『利用率』は11.7%となっている。



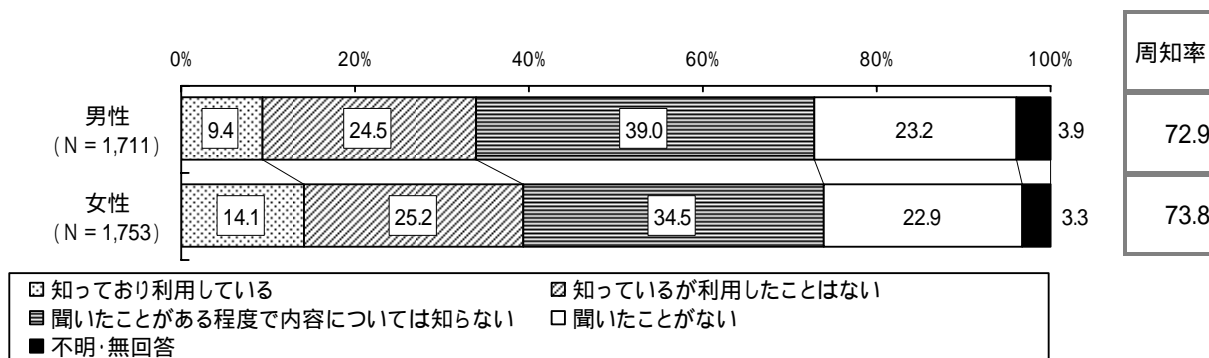
【地域別】

『周知率』は東近江地域を除き、7割を超え、なかでも甲賀地域が最も高く78.8%となっている。『利用率』は湖西地域が17.1%と最も高くなっている。



【性別】

『周知率』は男性 72.9%、女性 73.8%と大きな差はないが、『利用率』は男性 9.4%、女性 14.1%で女性のほうが 4.7 ポイント高くなっている。



【性・年代別】

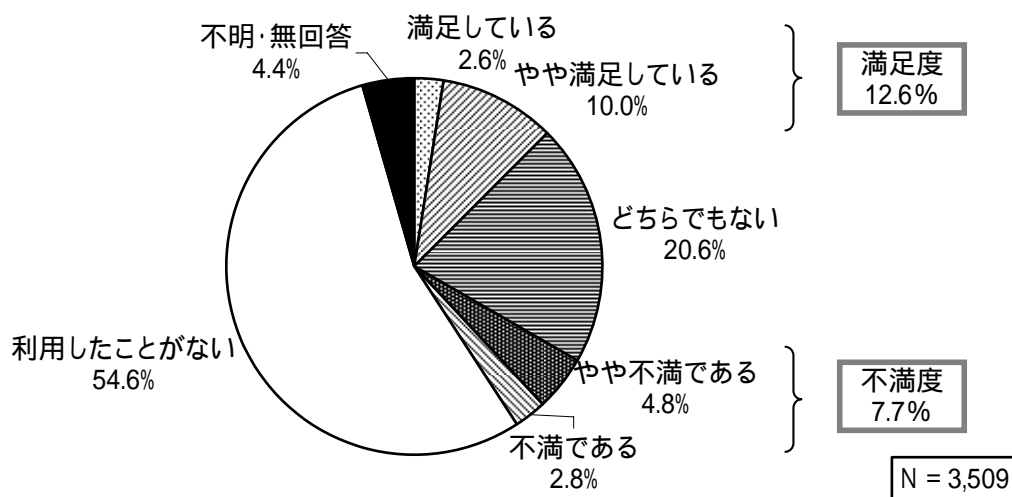
すべての年代において、『利用率』は女性のほうが高くなっている。『周知率』では男女ともすべての年代で5割を超えている。また、20～40歳代では女性のほうが高く、50歳以上では男性のほうが高くなっている。また、男性では年代が上がるにつれて『周知率』も高くなっている。

2) 健康福祉関連サービスに対する満足度

満足度は 12.6%

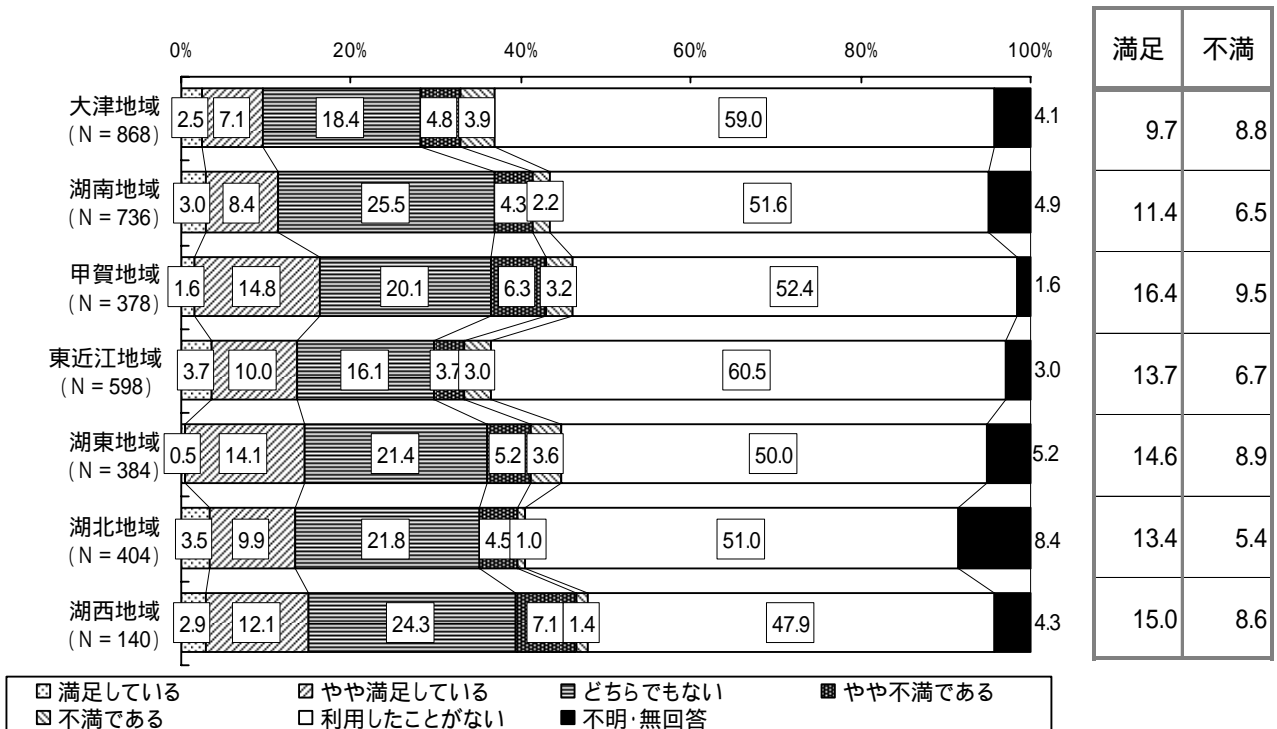
「利用したことがない」が 54.6%で最も高く、次いで「どちらでもない」が 20.6%となっている。

『満足度』(「満足している」「やや満足している」の合計)は 12.6%で、『不満度』(「やや不満である」「不満である」の合計)は 7.7%となっている。



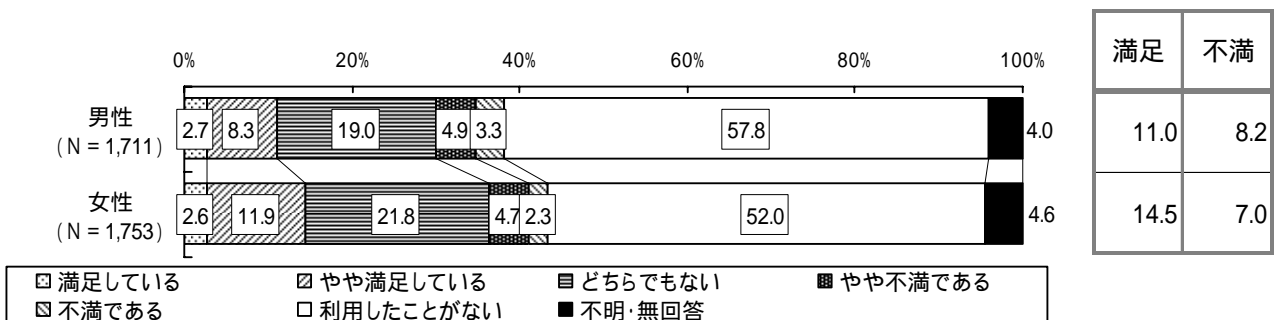
【地域別】

「満足している」は東近江地域で 3.7%と最も高く、『満足度』が最も高いのは甲賀地域の 16.4%となっている。



【性別】

『満足度』は男性 11.0%、女性 14.5%で女性のほうが 3.5 ポイント高くなっている。



【性・年代別】

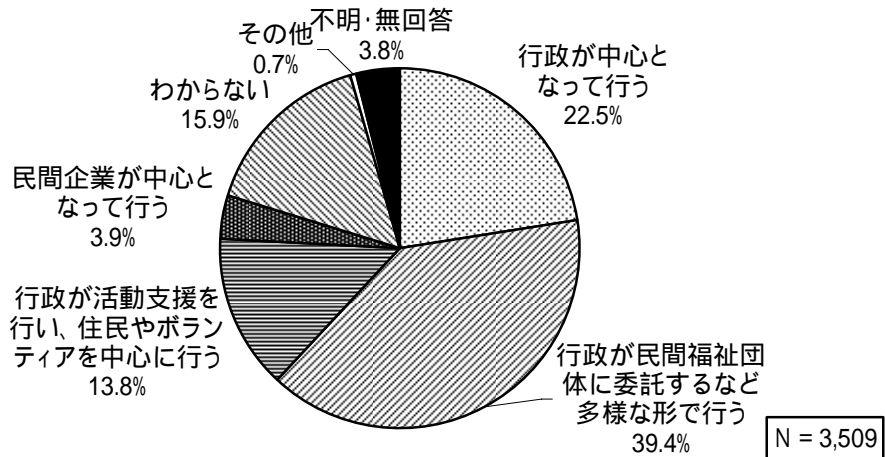
男女とも 70 歳以上で『満足度』が最も高く、男性 18.0%、女性 23.6%となっている。『満足度』が最も低いのは、男性は 40 歳代の 4.7%、女性は 20 歳代の 4.3%となっている。

今後の健康福祉サービスのあり方について

問 18 今後の健康福祉サービスのあり方について、あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。(は1つだけ)

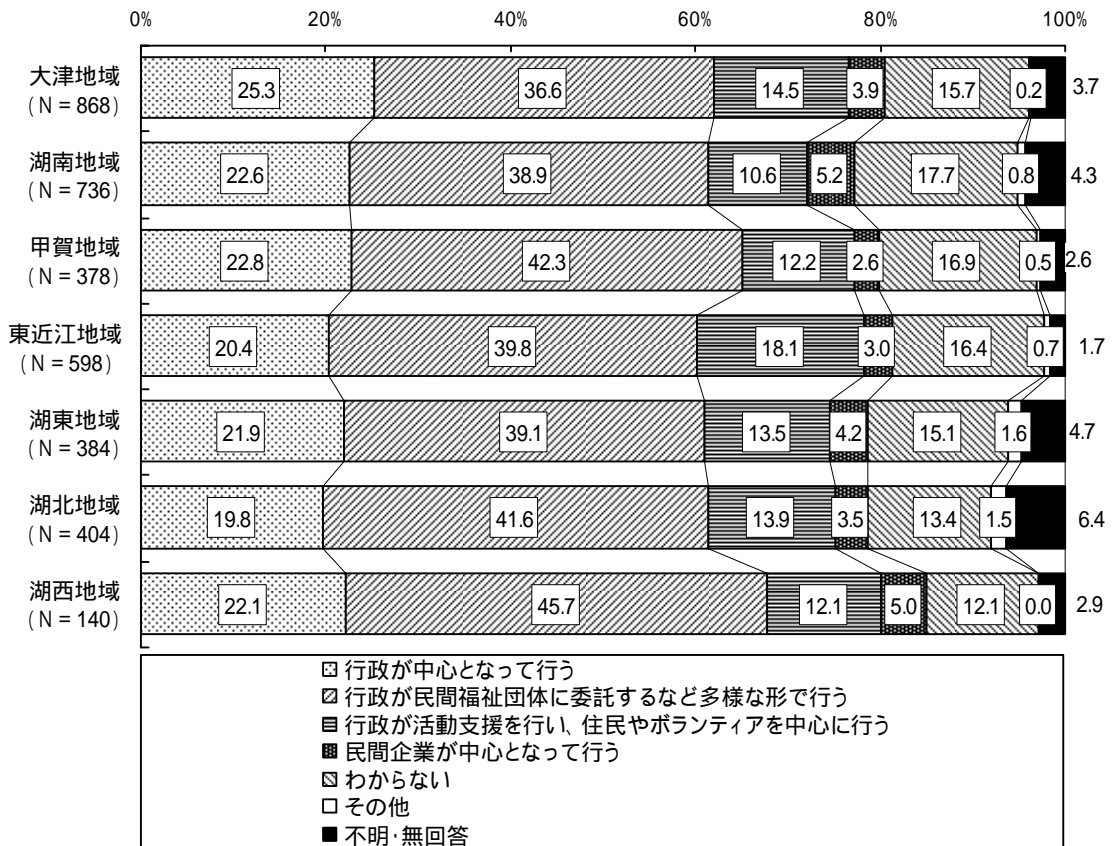
「行政が民間福祉団体に委託するなど多様な形で行う」が4割弱

「行政が民間福祉団体に委託するなど多様な形で行う」が39.4%で最も高く、次いで「行政が中心となって行う」(22.5%)、「行政が活動支援を行い、住民やボランティアを中心に行う」(13.8%)の順となっている。



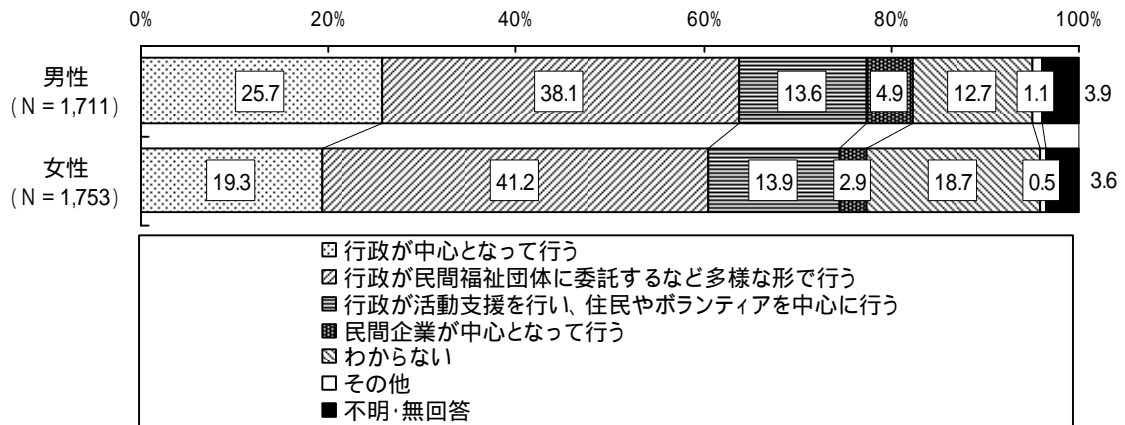
【地域別】

すべての地域において「行政が民間福祉団体に委託するなど多様な形で行う」、次いで「行政が中心となって行う」の順となっており、「行政が民間福祉団体に委託するなど多様な形で行う」は湖西地域で45.7%と最も高くなっている。



【性別】

男女とも「行政が民間福祉団体に委託するなど多様な形で行う」が最も高く、次いで「行政が中心となって行う」の順となっており、「行政が中心となって行う」は男性のほうが6.4ポイント高くなっている。



【性・年代別】

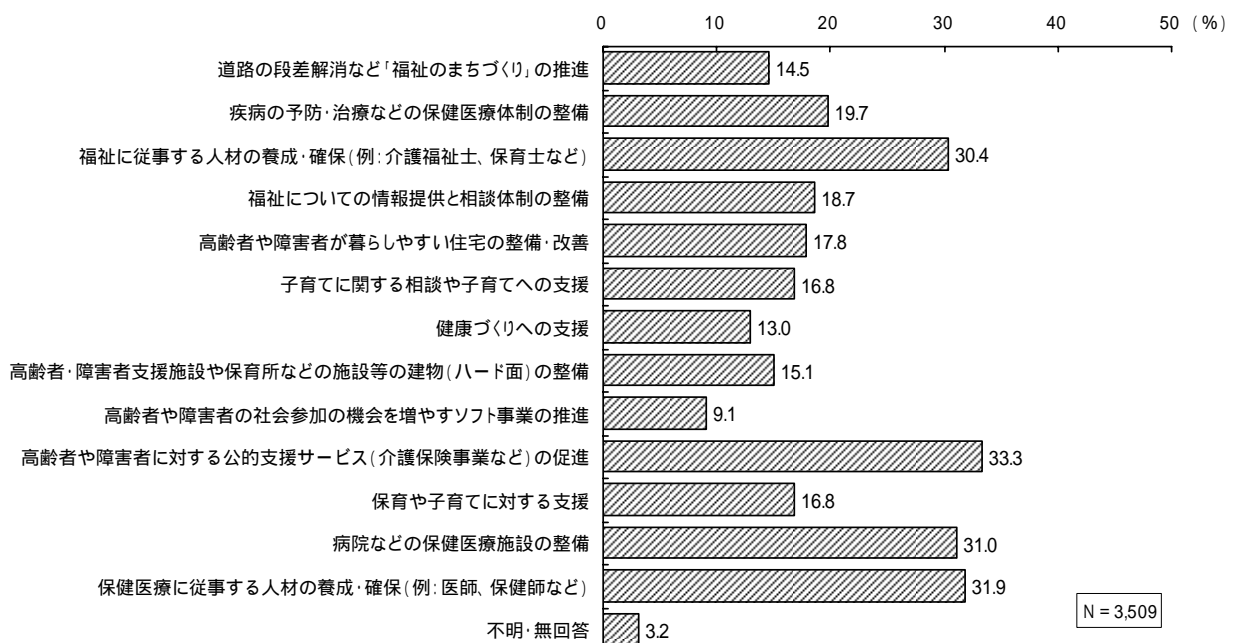
男性の30歳代では「行政が中心となって行う」が、女性の20歳代では「わからない」が最も高く、男女ともにその他の年代では「行政が民間福祉団体に委託するなど多様な形で行う」が最も高く3割以上となっている。

健康福祉関連施策に対する要望

問 19 あなたが健康福祉関連施策に対して要望されることは何ですか。(は3つまで)

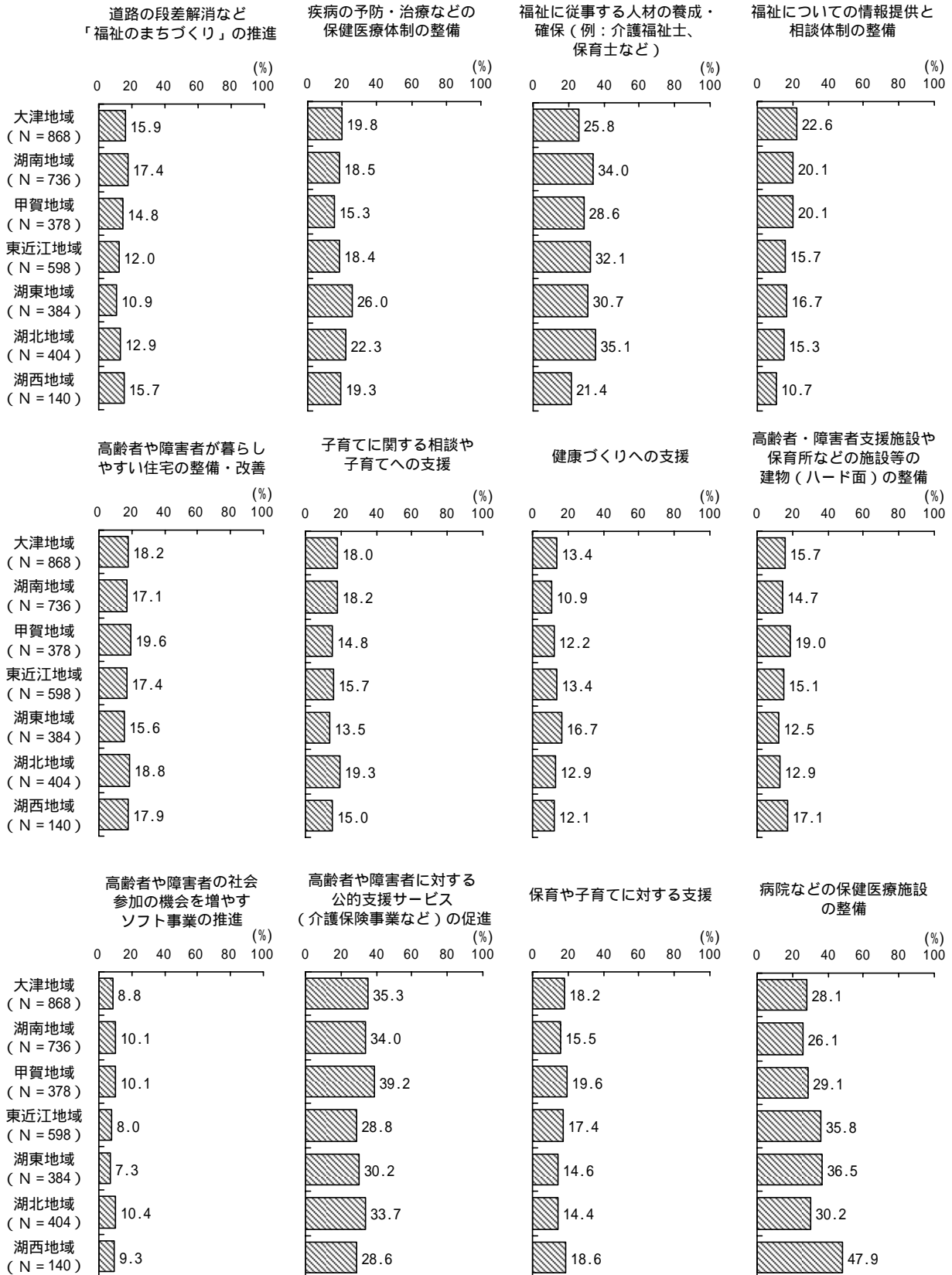
「高齢者や障害者に対する公的支援サービス（介護保険事業など）の促進」が33.3%

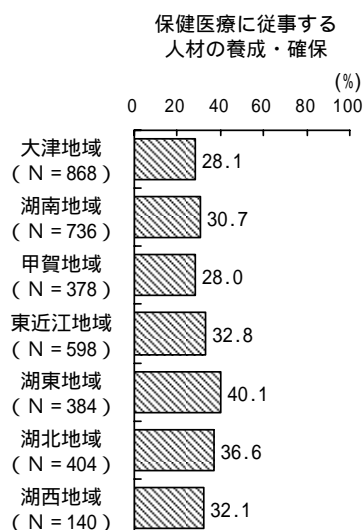
「高齢者や障害者に対する公的支援サービス（介護保険事業など）の促進」が33.3%で最も高く、次いで「保健医療に従事する人材の養成・確保」(31.9%)、「病院などの保健医療施設の整備」(31.0%)、「福祉に従事する人材の養成・確保」(30.4%)の順となっている。



【地域別】

大津・甲賀地域では「高齢者や障害者に対する公的支援サービスの促進」が最も高く、東近江・湖西地域では「病院などの保健医療施設の整備」、湖東・湖北地域では「保健医療に従事する人材の養成・確保」、湖南地域では「福祉に従事する人材の養成・確保」と「高齢者や障害者に対する公的支援サービスの促進」が同率で最も高くなっている。

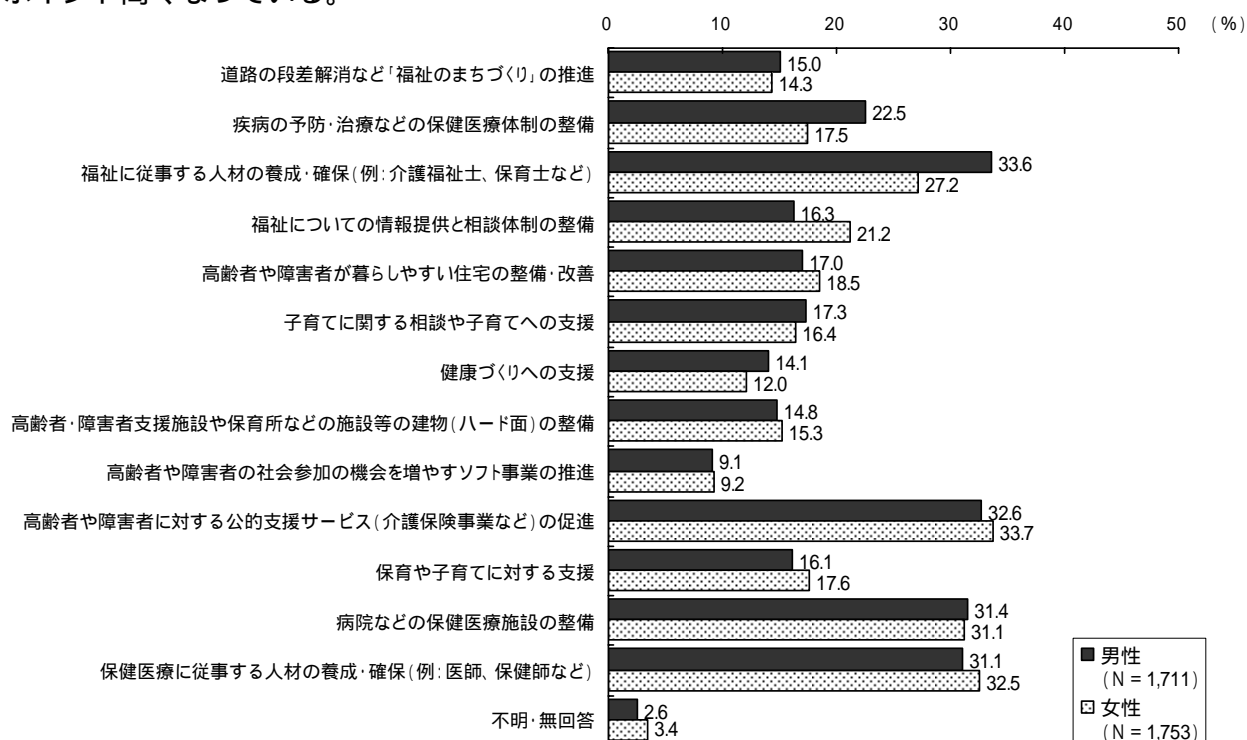




【性別】

男性では「福祉に従事する人材の養成・確保」が、女性では「高齢者や障害者に対する公的支援サービスの促進」が最も高くなっている。

「福祉に従事する人材の養成・確保」は、男性が 33.6%、女性 27.2%で、男性のほうが 6.4 ポイント高くなっている。



【性・年代別】

男性の 20 歳代では「保健医療に従事する人材の養成・確保」が、男性の 30 歳代では「子育てに関する相談や子育てへの支援」が、男性の 40～50 歳代では「福祉に従事する人材の養成・確保」が、女性の 20～30 歳代では「保育や子育てに対する支援」が、女性の 40 歳代では「病院などの保健医療施設の整備」と「高齢者や障害者に対する公的支援サービスの促進」が同率で最も高く、男女ともにその他の年代では、「高齢者や障害者に対する公的支援サービスの促進」が最も高くなっている。